

平成29年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校について

研究推進取組発表校は、学校・地域の実態に応じた年間指導計画を基に、実践内容や児童生徒の変容等、実践の成果を、各地区防災教育研究協議会（9月）、研究推進取組発表校発表会（1月）において発信した。

※発表資料は報告書に掲載

【平成29年度仙台版防災教育研究推進取組発表校】 29校

〔青葉区〕	上愛子小学校	作並小学校	大倉小学校	広陵中学校
	北仙台小学校	北仙台中学校		
〔若林区〕	南小泉小学校	遠見塚小学校	南小泉中学校	
	蒲町小学校	大和小学校	蒲町中学校	
〔宮城野区〕	宮城野小学校	原町小学校	宮城野中学校	
	西山小学校	燕沢小学校	柞江小学校	西山中学校
〔太白区〕	金剛沢小学校	八木山南小学校	西多賀中学校	
	人来田小学校	人来田中学校		
〔泉区〕	向陽台小学校	向陽台中学校		
	将監小学校	泉ヶ丘小学校	将監東中学校	

平成29年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校 発表会

1 日 時 平成30年1月30日（火） 14:00～16:45

2 会 場 仙台市教育センター 大研修室 他

3 発表校 29校

4 ねらい

- 平成29年度発表校が、学校や地域の実態に応じた年間指導計画を基に実践した内容や児童生徒の変容を発表し、取組の成果と知見を仙台市全体で共有する。
- 各学校の防災教育実現のために、カリキュラムマネジメントの視点で、平成30年度仙台版防災教育年間指導計画改善のための課題を探る。

【カリキュラムマネジメントの視点】

- ・ 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- ・ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- ・ 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

5 日 程

(1) 全体会【大研修室】 14:00～14:15

- ① 開会
- ② 教育委員会あいさつ
- ③ 視点及び発表会の流れについて

(2) 発表会【各研修室】 14:30～16:45

- ① 開会
- ② 発表
- ③ 全体討議
- ④ 市教委担当から講評
- ⑤ 閉会

■各研修室の発表校 ※時間は目安（1校：15分の発表）

会場 時間	研修室2・3 (太白区5校)	研修室10・11 (青葉区6校)	研修室7 (若林区6校)	研修室8 (宮城野区7校)	研修室9 (泉区5校)
14:30～14:45	金剛沢小	上愛子小	南小泉小	宮城野小	向陽台小
14:45～15:00	西多賀中	作並小	遠見塚小	原町小	向陽台中
15:00～15:15	八木山南小	大倉小	南小泉中	宮城野中	将監小
15:15～15:30	人来田小	広陵中	蒲町小	西山小	泉ヶ丘小
15:30～15:45	人来田中	北仙台小	大和小	休憩	将監東中
15:45～16:00	休憩	北仙台中	蒲町中	燕沢小	休憩
16:00～16:15	全体討議	休憩	休憩	枡江小	全体討議
16:15～16:30	全体討議	全体討議	全体討議	西山中	全体討議
16:30～16:40	全体討議（質疑を含む）				

平成29年度 仙台版防災教育
研究推進取組発表校報告書

平成30年3月

仙台市教育委員会

目 次

学 校 名	区	年間指導計画作成上の工夫	P
金剛沢小学校	太白区	防災と関連する教科と総合的な学習の時間を中心とした防災学習	1・2
西多賀中学校	太白区	自助、共助について理解し、地域の一員として考える防災教育	3・4
八木山南小学校	太白区	地域とともに自助、共助のスキルを高める防災教育	5・6
人来田小学校	太白区	地域、中学校（人来田中・山田中）、保護者と連携する防災教育	7・8
人来田中学校	太白区	自助・共助・公助を理解し、地域との連携を目指す防災教育	9・10
上愛子小学校	青葉区	「大きな災害にあった時、生きぬくために必要なことや物を考えよう！」 三校交流授業（学級活動）実践を中心とした防災教育	11・12
作並小学校	青葉区	地域と連携した防災教育	13・14
大倉小学校	青葉区	地理や自然環境を考慮した防災教育	15・16
広陵中学校	青葉区	地域や自然環境を考慮し、保護者や地域と連携した防災教育	17・18
北仙台小学校	青葉区	児童の発達段階に応じた基礎的な知識や対応方法を身に付ける防災教育	19・20
北仙台中学校	青葉区	総合的な学習の時間を利用した防災教育 地震だけでなく、地理・自然環境を考慮した地域防災教育	21・22
南小泉小学校	若林区	児童の発達の段階に応じた防災対応力を高める防災教育	23・24
遠見塚小学校	若林区	保護者や地域と連携した防災教育	25・26
南小泉中学校	若林区	保護者や地域と連携した防災教育	27・28
蒲町小学校	若林区	保護者や地域と連携した防災教育	29・30
大和小学校	若林区		31・32
蒲町中学校	若林区		33・34
宮城野小学校	宮城野区	宮城野タイム(朝の活動)を中心とした防災タイムを利用した防災教育	35・36
原町小学校	宮城野区	保護者や地域と連携した防災教育	37・38
宮城野中学校	宮城野区	多様な活動を通して意識を高める防災教育	39・40
西山小学校	宮城野区	児童の実態を考慮した各教科と防災教育を結びつけた実践 自らの考えを発信するための防災教育	41・42
燕沢小学校	宮城野区	授業実践を通して自助・共助の意識を高める防災教育	43・44
栞江小学校	宮城野区	自分の身は自分で守る（自分で判断し、行動する）防災教育	45・46
西山中学校	宮城野区	非常時のみならず、日常においても安全を確保する意識を高める防災教育	47・48
向陽台小学校	泉 区	自ら判断し、主体的に行動できる児童を育てる防災教育	49・50
向陽台中学校	泉 区	避難訓練を中心とした防災教育とボランティア活動の推進	51・52
将監小学校	泉 区	避難訓練・引き渡し訓練など、防災行事と関連付けた仙台版防災教育 副読本「3. 11から未来へ」の活用	53・54
泉ヶ丘小学校	泉 区	地域と連携して進める防災教育	55・56
将監東中学校	泉 区	防災訓練などを中心とした防災教育	57・58

【報告書の見方】

- 報告書「1 学校・地域の実態」, 「2 目指す児童生徒の姿」に示した番号は, 「仙台版防災教育年間指導計画に位置付ける事項」との関連を表しています。

仙台版防災教育 年間指導計画に位置付ける事項 ※「仙台版防災教育実践ガイド」P. 7参照

- 1 学区内の地理, 気象条件等, 環境や実態に応じた防災に関する活動の実施
- 2 仙台版防災教育副読本の活用
- 3 東日本大震災の体験者からの講話等
- 4 学区内等の学校同士や保護者, 地域との合同による防災訓練の実施
- 5 復興ソングの継承

【報告書】

平成29年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校 報告書		学校番号
仙台市立	小 中学校	担当者
1 学校・地域の実態	→ 1 - 4	
2 目指す児童生徒の姿	→ 2 - 4	
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
4 児童生徒の変容		
5 実践の具体		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき, 平成30年度課題となること		
<input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を, 教科等横断的な視点で組み立てること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し, その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。		

仙台市立 金剛沢 小学校

担当者 庄司 亮

1 学校・地域の実態

1

- ・東日本大震災と児童生徒について：学区の地盤が固く、児童の住居に被害がほとんどなかったため、避難所生活を体験している児童は少なく、防災に対しての意識は高いものの、被害に対する危機意識は低いと考えられる。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、引き渡し訓練など学校行事等への参加者は多い。引き渡し訓練でも事前に配布されているお便りをよく読み行事の内容をよく理解して参加する保護者がほとんどで協力的である。
- ・地域性（合同訓練等）：学校と地域は、「学区民運動会」や「あいさつ運動」等で良好な関係を築いている。防災関係では、地域と学校の合同避難訓練はまだ計画されていないが、昨年度は地域と学校の避難所設営研修会が1回実施された。地域防災を担う町内会の高齢化が進み、負担が大きいことが課題として挙げられる。
- ・学区内の地理、自然環境：金剛沢小学校は、仙台市南西部丘陵地の南斜面にある。学区には、桜と古墳で知られる三神峯公演があり、豊かな自然環境に恵まれた住宅地となっている。

2 目指す児童生徒の姿

1・2・5

- （自助）防災に関心を持ち、防災の知識を理解したり、技能を習得したりし、進んで防災の基礎基本を学び、日頃から災害に備え自分でできることをする児童
- （共助）非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・防災と関連する教科と総合的な学習の時間を中心とした防災学習。

4 児童生徒の変容

- ・災害時に起こる様々な危険について知り、適切な避難行動ができるようになってきている。
- ・西多賀中学校と連携して行っている「あいさつ運動」や「落ち葉拾い」等の活動を通して地域のコミュニティの一員であるという意識をより一層持てるようになってきている。

5 実践の具体

(1) 6年生で視聴覚教材を活用した授業参観<学習の進め方>

- ① 「クロスロードゲーム」を活用した学習の進め方を知る。
- ② テレビ（学ぼう BOUSAI）を視聴し問題1を知る。
- ③ 自分の意見を決めてカードを準備する。（YESが赤 NOが黒）
- ④ 一斉にカードを見せる。
- ⑤ ポイントシールの配付をする。（多数派：緑 一人：金）
- ⑥ 意見発表をする。

<問題2についても②から⑥までを行う。>

(2) 各教科において

理科の、「大地のつくり」では、土地のつくりや変化を推論し、変化についての見方や考え方を持つことができるようにした。また、「変わり続ける大地」では、過去に起きた地震や火山の噴火について調べ、自然の力の大きさを知った。関連して、防災や減災についても調べ、災害に備えることや情報活用の重要性に気付き自ら行動する態度を育てた。その際、副読本「仙台版防災教育副読本3、11から未来へ」から地震と津波のメカニズムを知り災害について考えた。



問題1
学校にいる時に地震が発生！
津波に備えてみんなで避難することに。しかし、仲のいい友達が見当たりません。その時あなたはどうする。

友達を探しに行く YES
すぐ避難する NO

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況进行评估し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

平成29年度仙台版防災教育年間指導計画 金剛沢小学校 第6学年

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳
	関連行事等				
4	避難経路確認 自助	体 集団行動 共助	自助	学 安全な登校 学 クロスロードク イズをしよう	共助 副 第1章 ③ 震 災を忘れない!!
5	自助		自助・共助	学 修学旅行に ついて	副 第3章 ⑤ 大き な災害と人間の 心の動き 小さい子からもら った幸せ 自助
6	避難訓練(地震) 引渡訓練 自助	国 意見を聴き分け よう 保 病気の予防 自助	共助	行 避難訓練 地震対応マニュ アル(P5参照)	自助 自助
7	自助	自助	自助 自助	学 夏休みの生 活 副 第4章 ④ 災 害時をくらすヒント	副 第4章 ③ 応 急手当ての方法 と救急車の呼び 方 自助・共助 命の重みは皆同 じ 自助
8					自助・共助
9		体 着衣水泳 自助 自	自助	副 第4章 ⑤ 家 族防災会議を 開こう	自助 共助 車椅子の経験 から 姉妹で運ぶ物 資と笑顔
10		理 大地のつくり			
11	避難訓練(火災) 自助	理 変わり続ける大 地 副 第3章 ① ② 地震 と恒美のメカニズム 自助	自助	自助・共助	副 第2章 ⑤ 立ち 上がり僕らの復 興プロジェクト 自助 お母さんの手紙
12		社 私たちの生活と 政治 自助・共助	自助・共助	学 冬休みの生 活 自助	自助 東京大空襲の 中で 自助
1	自助・共助 共助	副 家 考えようこれか らの生活 副 社 第5章 ② 人々 をつなげる活動	副 理 第4章 ④ 地震を乗 り越えた人の 知恵 自助	自助・共助	自助
2	共助 共助	副 社 世界の中の 日本 副 社 第5章 ① つな がる世界の国々		副 第6章 ① 防 災知識をチェッ クしよう	
3			奉仕活動 自助	学 春休みの生 活 副 第6章 ③ 仙台 の自然災害年表 復興年表 自助	自助 自助

仙台市立 西多賀 中学校

担当者 斎藤 公夫

1 学校・地域の実態

1・2

- ・児童生徒：現中学生は6歳～8歳（小学2年）の時に震災を経験しているが、記憶も薄れて防災に対する意識は高くない。地震や大雨、台風などの災害について、自ら考え、自らの安全を確保するための行動ができるように指導を行う必要がある。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、学校行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。
- ・地域性（合同訓練等）：本校は災害時に、西多賀地区町内会連合会の避難所になっている。その町内会連合会を中心に、本校を会場にして防災訓練を実施しているが、生徒との合同訓練は行っていない。来年度は、地域との合同防災訓練を行う予定である。
- ・東日本大震災：建物等への大きな被害はなかったため、避難所を利用する住民は他の地域と比べると少なかった。避難所運営についてはマニュアルを見ながら臨機応変に行った。
- ・学区内の地理、自然環境：仙台中心部から南西、旧国道286号線沿いの丘陵地帯に位置する住宅地域である。学校の近くには桜の名所「三神峯公園」やホテルの生息する「天沼公園」があり、地域や学校が連携して清掃活動にあたるなど、地域の財産として大切にされている。

2 目指す児童生徒の姿

2

- (自助) 災害に対する正しい知識や対応方法を身に付け、災害発生時に冷静に判断し、臨機応変に自らの命を守ることができる生徒
- (共助) 平常時には地域連携等を通して地域とのつながりや関わりを大切に、災害時に進んで他の人や地域のために行動できる生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

自助、共助について理解し、地域の一員として考える防災教育

4 児童生徒の変容

副読本を活用した授業を通して、自助と共助についてよく理解し、災害時には自分の身を守り、進んで他の人や地域のために行動しようとする心が芽生えた。

5 実践の具体

(1) 避難訓練および集団下校訓練の実践

6月に、地震を想定した避難訓練と集団下校訓練を行った。集団下校訓練では、地区ごとに整列し、お互いの顔を実際に見ることによって、同じ地区には誰がいるのかを確認することができた。また、実際に地区ごとに下校することで、下校経路や解散場所の確認を行うことができた。

(2) 仙台版防災教育副読本を活用した授業実践

2学年の総合的な学習の時間に、副読本の「地域の一員として（5章③）」を活用して授業を実践した。その授業を通して、「仙台市地域防災リーダー（SBL）」について知り、地域の住民が互いに協力して「自分たちの地域は自分たちで守る『共助』」が重要になることを理解した。また、中学生も地域の一員であり、東日本大地震のときの中学生の活躍を知ることで、災害が起こったときに、自分たちには何ができるかを十分に考えることができた。

(3) 地域の環境美化活動

- ①総合的な学習の時間に、三神峯公園と天沼公園の落ち葉拾いを生徒全員で実施した。
- ②太白区内地域連携ネットワーク事業の一つである「三神峯公園清掃&昼食交流会」（休日に開催）に、全生徒の3分の1である100名がボランティアとして参加した。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳
	関連行事等				
4				★復興に駆ける(1章②) ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	
5	・復興プロジェクト ・自然体験学習	・日本の様々な自然災害と防災(社会)	自助, 共助		★花と緑で人々に笑顔を(2章⑥) ・裏庭のできごと2-(3)
6	・中総体 ・避難訓練(地震)／集団下校訓練(8/19)	★一人一人が災害に備える(4章①: 家庭) ・住まいの安全対策(家庭) ・災害への備え(家庭)	自助	・避難訓練(地震)・集団下校訓練 ★1.17から3.11～(5章③) 自助, 共助	
7	・(合唱コンクール)(7/5) ・夏季休業中の安全指導				★ともに育つ(2章⑤)
8	・(夏祭りなど地域行事)				
9	・(西中祭)(9/2) ・地域避難訓練(9/7)				
10	・(運動会)(10/21)				
11	・避難訓練(地震・火事)(11/13) ・三神峯公園清掃活動&地域の方との昼食交流会 ・三神峯公園・天沼公園の落ち葉拾い	共助	★地域の一員として(5章②) 共助	★防災知識をチェックしよう(6章①)	
12		★仙台平野災害の歴史を学ぼう(3章④: 社会) ・前線とまわりの天気の変化(理科)			
1	・(ファイナンスパーク)1/25				・小さな一歩4-(2)
2		★知っておきたい心肺蘇生の方法とAED(4章⑥: 体育) ・傷害の防止(体育)			★心を満たす食べ物をお届け(5章①)
3		・身近な地域の調査(社会)			★仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)

仙台市立 八木山南 小学校

担当者 高橋 寛

1 学校・地域の実態 → 1・4

・学区は八木山西部の丘陵地帯にある。東日本大震災のときには特に大きな被害がなかったこともあり、児童の震災時の記憶はあまり鮮明ではなく、防災に対する意識もあまり高くはない。学区内では毎年10月に「地域総合防災訓練」を行い避難所開設、運営を中心に訓練を行っている。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

- 〈自助〉 災害時に関する基礎的知識とその対処法を身に付け、非常時にも適切に判断し、自らの安全を確保できる児童
- 〈共助〉 災害時に周囲の人々と協力し、積極的に自分の役割を見つけて地域の力になることができる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

地域とともに自助、共助のスキルを高める防災教育

4 児童生徒の変容

- ・地震ばかりでなくさまざまな災害と減災防災についての知識が高まってきた。
- ・地域防災訓練に参加しながら毎年知識やスキルを積み重ねている。
- ・避難訓練以外でも地震等があった場合は素早く避難態勢に入れるようになった。

5 実践の具体

(1) 身近に起きうる災害についての学習

東日本大震災の事実と防災について学習すると同時に、身近に起きうる災害として台風、豪雨、落雷、土砂崩れが考えられ、更に交通事故、火災もある。それらの災害の知識を身に付け、減災、防災の意識を高めた。

(2) 地域総合防災訓練

回を重ねるたびに地域住民の意識は高まり、今年度は地域の方だけで実際の災害を想定して避難所の開設、運営ができるところまでスキルが上がってきた。

来年度は学校を離れて町内会主体で防災訓練を行うということが決まった。万が一に備えてより実際に近い訓練になりそうである。児童は登校日ではなくなるが、これまで通り訓練に参加する予定である。濃煙体験、消火器体験、応急手当法、防災ダックダンスなどの体験活動については、これまで別会場で体験できなかった児童も体験できるよう学校で企画・運営し行う予定である。いざというときに備えて、地域の防災に対する関心、スキルが向上していくことを目指している。



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度		
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容		
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳	
	4	・登下校指導 ・避難経路確認 ・非常時下校体制確認 ・交通安全教室			・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	☆歩み出す 力強く(1章②) ①
5	・戸口訪問					
6	・集団下校訓練	・けがの防止 (体育)				
7		・できるように なったかな家庭 の仕事(家庭)		・八木山南で遭 遇する可能性 のある災害 は？	・夏休みの生活	☆希望の詩～ 「ない」～(2章 ①)①
8	・登下校指導 ・引き渡し訓練					・2(3)友情・信 頼
9	・避難訓練(地震)	・台風と天気の変 化(理科)		☆避難訓練 いろいろな自 然災害(3章③: 理科)①・野外 活動時の災害 発生の対応		・3(2)自然愛・ 環境保全
10	・野外活動 ・地域合同防災訓練(避 難所設営)	・流れる水のはた らき(理科) ☆津波のメカニ ズムと災害(3章②: 理科)① ☆応急手当の方 法と救急車の呼 び方(4章⑦:体 育)①		☆災害時をく らすヒント(4章⑥) ①☆地域総合 防災訓練②		
11	・避難訓練(火災)			・避難訓練		・3(1)生命尊 重
12	・八木山防災シンポジウ ム	・情報化した社 会とわたしたち の生活(社会) ☆災害時の情 報手段(3章④: 社会)①			・冬休みの生活	
1	・登下校指導			・登下校の安全		
2		☆心と向き合っ て(4章⑧:体 育)①				
3		・自然災害を防 ぐ(社会)		☆防災知識を チェックしよう (6章①) ☆仙台の自然 災害年表・復興 年表(6章③)①		
		4時間	0時間	7時間	1時間	1時間
	合計				13時間(関連内容を除く)	

仙台市立 人来田 小学校

担当者 菅原 篤

1 学校・地域の実態

1・4

- ・児童：東日本大震災から6年が経過し、震災未経験の児童が入学してきた。年数が経過したためや、学区が海岸から離れた高台にあるため、地震や津波に対する警戒感が低くなっている傾向がある。しかし、災害は地震や津波だけではなく風水害の可能性も高いので、自ら考え、自他の命を守る行動ができるように指導していく必要がある。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、学校には協力的で、緊急時引き渡し訓練などの行事にも進んで参加する。
- ・地域性：昨年までは小学校区で地域と協力しながら防災訓練を行ってきたが、今年度は、近隣の小中学校（5校連携）での地域合同防災訓練を行った（10月）。
- ・東日本大震災：高台にあるため津波の被害はなく、建物等への大きな被害もなかった。避難所を利用する住民は他の地域に比べて少なかった。（避難所運営4日間、最大宿泊避難者約160名）
- ・学区内の地理、自然環境：学区内に土砂災害危険地域に指定されている崖がある。高台に在り、冬には積雪量が多く、アイスバーンとなる道路も多い。

2 目指す児童生徒の姿

2・4

自助：自然災害に関する正しい知識を身に付け、災害時に危険を予測し、自分の命を守るために行動できる児童
 共助：支援者として互いに協力し合い、地域のために進んで行動できる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

地域、中学校（人来田中・山田中）、保護者と連携する防災教育

4 児童生徒の変容

- ・地域合同防災訓練では、学年の発達段階に応じて防災に関する体験をすることができ、防災意識・知識ともに高まった。また、地域の方々と協力し合うことで、これまで以上につながりが深まった。

5 実践の具体

(1) 地域合同防災訓練

10月に近隣5校（人来田中・人来田小・山田中・上野山小・太白小）と連合町内会による地域合同防災訓練を行った。児童生徒・地域住民は自宅から一時避難所を経由し、その後それぞれの指定避難所となる各小中学校へ避難した。各学校到着後は、それぞれの地域・学校で準備しているプログラムに沿って防災訓練を行った。人来田小では、濃煙体験、水消火器・通報・簡易トイレ設置・AED等の各種訓練、アルファ米の炊き出し等を、小学校児童・中学校生徒が地域の方々と協力して行った。

初めての試みであったが、計画準備において、保護者への活動内容の周知徹底と繰り返し地域・子供会や他の学校・関係機関と会議や打合せを重ねたことで、地域合同の防災訓練を行うことができ、防災について考えを深めるいい機会となった。

(2) たてわり活動

人来田小では、たてわり班による活動を児童会活動の軸としている。たてわり遠足など様々なたてわり活動により各学年間の交流を深めている。これらの活動を通して、やさしく人に接したり、互いに助け合ったりという意識が学校として伝統的に育ってきている。この人間関係を土台として、さらに地域に目が広がり、中学生や地域の方々と交流に結び付いている。防災教育に結び付く自助・共助の基礎を学ぶ場となっている。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- ✓ 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- ✓ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- ✓ 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画

人来田小学校

第6学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳		
	関連行事等						
4	・学区通学路の安全確認 ・集団下校訓練 ・避難訓練(地震)					・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認 ・集団下校のための動き・校外学習中に考えられる危険性とその対処	☆震災を忘れない(1章③) ☆震災から文化財を守り継ぐ人々(4章⑧)
5	・防犯ボランティア交流会					☆大きな災害と人間の心の動き(3章④)	・防犯ボランティアさんに感謝しよう
6	・引き渡し訓練 ・交通安全教室					・引き渡し訓練 事前事後指導 ・修学旅行中に考えられる危険性とその対処	
7							・夏休みの生活
8	(地域行事への参加)					☆災害時をくらすヒント(4章④)	・地域行事への参加 ・4(7)郷土愛・愛国心
9						☆災害が起きたら(4章①)	・3(2)自然愛・環境保全
10	・たてわり防災 ・地域合同防災訓練	・大地のつくりと変化(理科) ☆地震と津波のメカニズムと災害(3章①:理科)		・たてわり防災発表		☆立ち上がれ僕らの復興プロジェクト(2章⑤) ・避難所設営補助	
11	・集団下校訓練 ・避難訓練(火災)	・希望の道(音楽)				・避難訓練事前事後指導	・3(1)生命尊重
12	・防犯教室	・災害から人々を守る(社会) ☆人々をつなげる活動(5章②:社会) ☆災害に強い街づくりを目指して(2章③)					・冬休みの生活
1							・2(5)尊敬・感謝
2		☆つながる～世界の国々と～(5章①:社会)					
3	・復興プロジェクト					☆防災知識をチェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・春休みの生活

☆ 副読本活用

仙台市立 人来田 中学校

担当者 成澤 いづみ

1 学校・地域の実態 → 1・4

- ・生徒：素直で勤労意欲は高いが、周囲の状況から想像したり判断したりできるように指導を行う必要がある。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、学校行事などの参加者は多い。東日本大震災の被害は少なく、家屋の損壊はほとんどなかった状況がある。
- ・地域性：町内会はとても協力的で、地域主催の防災訓練の運営のリーダーシップをとっている。高齢者が増えていることから、中学生が災害時に地域住民の一員としての役割を果たすことが求められている。
- ・学区内の地理、自然環境：学校敷地の西側斜面が、土砂災害危険地域になっており、大雨の時には体育館が避難所として開設できない。また、学区内に市民センターがないため、災害時の中核となる場所がない。加えて、積雪が多く、冬期間は道路がアイスバーンになりやすい。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し臨機応変に自らの安全を確保できる生徒
- (共助) 非常時に進んで他の人や地域の力となれる生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

自助・共助・公助を理解し、地域との連携を目指す防災教育

4 児童生徒の変容

防災教育の授業を行うことにより、日頃から備えておくことが大切だという意識を持った生徒が増えた。防災訓練を通して、地域住民の一員としての役割、住民相互の助け合いの心を養うことができた。

5 実践の具体

(1) 「災害に備える」(総合)の授業実践

日本赤十字社「まもるいのち ひろめるぼうさい」の教材を活用して、災害についての知識を学び、災害に対する日頃の備えについて学習した。また、仙台版防災教育副読本「第4章-4 家庭でできる災害への備え」で家庭での備えについてチェックした。

(2) 「災害時シミュレーション」(学活)の授業

- ・1, 2年生はもし子供だけで自宅にいるときに、災害が起きて避難所に行くときに何を持ち出すべきかをグループで話し合わせた。
- ・3年生は、「みんなでわけよう」というグループワーク教材を利用して、様々な立場の人のことを考えながら避難所でどう食料を分けるかを考えた。

(3) 近隣5校合同総合防災訓練の開催(10月28日)

山田中・人来田中学区にある小中学校5校が同時開催で地域合同総合防災訓練を実施した。朝自宅にいるときに発災したことを想定して、一時避難所から地域の人と一緒に避難所となる学校に避難した。その後、地域の方々と連携しながら、発電機操作訓練、仮設トイレ組立、アルファ米炊き出しやAED講習などを行った。町内会の方に指示を仰ぎながら、小学生に説明したり声掛けしたりして訓練した。



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する		防災や災害に関する		防災や災害に関する	
月	教科・領域関連行事等	教科	総合	特活	道徳		
4	・校内安全点検 ・始業式、入学式 ・地区集会 ・PTA総会(緊急連絡用カード説明) ・守ろうデー	・「校舎巡り」(非常口、避難経路の確認:学活) ・集団訓練(保体) ・薬品やガラス器具の使い方(理科)	・地域避難場所の確認	・安全な登下校指導 ・安全な避難⇒経路と場所の確認 ・緊急連絡用カードの確認 ・地区割り(地区での名簿確認)		・★「自分の番 いのちのバトン」	
5	・校内安全点検 ・守ろうデー ①校外学習 ・生徒総会			・校外学習での災害時の対応を学習	・ドローイングチャレンジ(日赤防災教育プログラム)		
6	・校内安全点検 ・守ろうデー ・仙台市中総体 ○避難訓練(地震・火災) ・地区集会	・中総体の事前指導(防災・安全面:学活) ・水泳の事故防止について(保体) ・「復興ソングの練習」(音楽)	・地震災害への備え ・★「心を満たす食べ物を届ける」	・★「自分を守る」 ・★「東北地方太平洋沖地震発生」 ・地域の一員としての自覚を高める・避難訓練の事前指導 ・地区割り(集団下校と待機の確認) ・地震・火災への備え	・★「復興に駆ける」	・★第1章3「一步一步力強く 語り部として」 ・★第2章5「ともに育つ」	
7	・地区懇談会 ・校内安全点検 ・合宿コンクール ・守ろうデー ・復興プロジェクト① ・地区集会 ○地域行事参加	・着衣水泳(保体) ・「身の回りの物質の変化」(理科)		・地域の一員としての自覚を高める ・夏季休業の過ごし方	・地域行事への参加	・「バスと赤ちゃん」	
8	・校内安全点検 ・地区巡視 ○地域行事参加 ①天文台学習	・「アジアの国々 人口の集中と災害」(社会)	・地域を知る		・地域行事への参加		
9	・校内安全点検 ・守ろうデー ○地域行事参加 ○山中と合同交通安全教室	・「心の健康を守るために」(保体)	・交通安全について知る	・A交通安全教室の事前指導	・「災害時入ミレーション」 ・★「災害心理に備える」		
10	・校内安全点検 ・守ろうデー ・運動会 ○地域防災訓練	・運動会に向けての安全指導(保体)	・★「地域の一員として」	・新入大会の事前指導 ・地域防災訓練事前指導 ・地域防災訓練事後指導 ・地震・火災への備え ・★「家庭でできる災害の備え」		・「夜のくだもの屋」	
11	・校内安全点検 ・守ろうデー ②職場体験 ①福祉施設訪問 ・復興プロジェクト②			・福祉施設訪問事前指導 ・ストープの取扱いについて・室内での安全な過ごし方			
12	・校内安全点検 ・守ろうデー			・冬期の安全な登下校指導 ・冬季休業の過ごし方		・「かけがえない自他の生命を尊重して」	
1	・校内安全点検 ・守ろうデー	・★「世界でも自然災害のリスクが高い日本」 「火をふく大地」(理科)					
2	・校内安全点検 ・守ろうデー	・「復興ソングの練習」(音楽) ・★「3.11の地震を科学の目でとらえよう」 「地震に備えよう」(理科)		・★「防災知識をチェックしよう」	・★「学びの窓・東日本大震災の記録」 ・★「仙台の自然災害年表・復興年表」		
3	・校内安全点検 ・守ろうデー ・予備式、卒業式 ・復興プロジェクト③			・春季休業の過ごし方	・東日本大震災を振り返って	・「娘のふるさと」	

★ 仙台版防災教育副読本使用

仙台市立 上愛子 小学校

担当者 阿部 誠

1 学校・地域の実態

1・2

- ・児童生徒：東日本大震災の学区での被害は少なく、多くの児童は地震災害の記憶がない。また、全校児童86名の約8割以上が路線バスやスクールバスで通学をしており登下校の交通災害や、ミサイル等の安全対策等の危機意識は少ない。保護者による自家用車での移動が多く、自分一人で状況に応じて判断し行動する機会が少ないこともあり、判断力やコミュニケーションの力をさらに育てていく必要がある。
- ・保護者：自宅周辺の交通便が悪いので、自家用車による移動をする家庭が多い。引き渡し訓練など学校行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。ライフライン（井戸・プロパンガス・常備食・ガソリン）についても日頃から確保できている家庭が多い。
- ・地域性（合同訓練等）：少子高齢化が進み、地域防災の担い手は、中学生や小学校高学年生に委ねるところが大きい。地域を災害から守るため連携しようとする意識は高い。それぞれの町内会で防災訓練を実施している。
- ・東日本大震災：市西部地域に位置することから先の大震災において、大きな被害を被っていない。学校が避難所指定となっているが、学区が広いため学校を利用する住民はいなかった。近くの地区集会所には備蓄倉庫もある。
- ・学区内の地理、自然環境：自然災害では、大雨等での土砂崩れや浸水が懸念される。また、積雪が多く冬期間は、交通安全により気を付けなければならない。

2 目指す児童生徒の姿

2・3

- 防災知識（自助）・災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常災害時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童、・かけがえのない自分の命を自分で守る児童、・係活動等を通して学級の役に立つ児童
- 地域交流（共助）非常災害時に、進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができる児童
- ◎コミュニケーション コミュニケーション力を高め、地域とのつながりを大切にする児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「大きな災害にあった時、生きぬくために必要なことや物を考えよう！」三校交流授業（学級活動）実践

4 児童生徒の変容

- 講師や友達の話から、大きな災害があった時の生活の様子について知ることができた。また、自分の課題を持つことができた。学校の備蓄倉庫を自ら確認する児童や、災害について自主的に調べる姿が見られた。
- たてわり活動は、「互いに分かり合える活動」として、様々な効果が期待できるものである。アクティブラーニングの点からも大きな効果が考えられる活動であり、児童の大きな成長を感じている。

5 実践の具体

(1) 「大きな災害にあった時、生きぬくために必要なこと・物を考えよう」三校交流授業（学級活動）の授業実践

授業のねらい：講師や友達の話から、大きな災害があった時の生活の様子について知り、自分の課題を持つ。

導入：震災のことを振り返る。その後（展開）、①東日本大震災当時の学校給食の様子を聞き、災害時の生活を想像し、自分の課題を作る。時系列に給食再開までの様子や苦勞、工夫について気付かせる。（キーワードを書き込んでいく）・ライフライン・非常食・学校や地域の様子・地域の協力・子どもの生活・牛乳とコッペパン等②講師の話や自分の経験などから、本時の課題について考える。③災害時の生活の苦勞・工夫の中から自分の課題を設定する。

終末：学習を振り返る。自分の課題を発表し、学習の感想を書く。【・生活（ライフライン）・生活（食）→非常食・生活（→地域防災）・生活（心の動き）・生活（地域との関わり）】

(2) 仙台版防災教育副読本を活用した実践

全学年が年間指導計画に基づき、仙台版防災教育副読本を活用した防災学習を行う。特に、各種訓練前後に仙台版防災教育副読本を活用し、必要な知識や技能、心構え等を確認し、いのちに関する大切なことと捉え、繰り返し防災学習を行う。

(3) たてわり活動を取り入れた実践

一年間を通してのたてわり交流活動の実施。6年児童が主体となって計画し、通学時には地区ごとのたてわり班で登校。学習活動、休み時間の遊びなど、学年の枠を超えた活動を日常的に行う。ほとんどの児童が、全校児童の名前を覚え、下級生の児童に優しくしたり、互いに困ったときは助け合ったりいう意識が育ってきている。本校では、こういった雰囲気や代々受け継がれている。防災の観点から、何かがあった時に地域の集団として互助の行動を取ることにつながる。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。

仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。

仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画

上愛子小学校 第6学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に対する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に対する 直接的な内容		防災や災害に対する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特	活	道徳	
	4					交通安全教室 通学班会(バス会議) 縦割り集会	体育 集団行動
5	引き渡し訓練 縦割り集会(歩け 歩け遠足・サツマ イモ植え)	国語 イースター島には なぜ森林がないのか			「3章⑤ 大きな災害と 人間の心の動 き」	故郷復興プロ ジェクト ボランティア の心	涙そうそう (生命尊重)
6	避難訓練(地震・集 団行動)「4章④家族 防災会議を開こう」 通学班会(バス会議)	保健 病気の予防			三校交流授業(防災教育) 「大きな災害にあった時、 生きぬくために必要なこと ・物を考えよう」		よみがえ った立ち ねぶた (家族愛)
7	防犯教室					地域のリーダ ーとして 夏休みの過ご し方	
8							
9	避難訓練(地震)						姉妹で運ぶ 物資と笑顔 (勤労奉仕)
10		理科 大地のつくりと変化 「3章① 地震のメカニズム を知ろう」				りんどっこ祭 の計画準備	
11	避難訓練(火災) 通学班会(バス会議)					故郷復興プロ ジェクト	ほしいって なに必要 ってなに (思慮節制)
12		社会 私たちの生活と政治 「5章② 人々をつなげる活 動」				家族との心の つながり 冬休みの過 ごし方	人と人をつ なぐ地域通 貨 (尊敬感謝)
1		家庭 考えようこれか らの生活					
2	通学班会(バス会議)	社会 世界の中の日本 「5章① つながる世界の国 々と」				地域のみなさんへ	
3						「6章① 防災知識をチ ェックしよう」	

仙台市立 作並 小学校

担当者 榊 寛

1 学校・地域の実態

1 - 4

児童は、地域防災訓練や通常の避難訓練を通して、防災についての知識・理解を日常において必要なこととして習得してきている。

地域、保護者とも学校に協力的であり、地域防災訓練にも積極的に参加している。東日本大震災における被害は、地域においては少なかったが、温泉地区の施設が使えなくなり、観光客の方々が学校に避難したという経緯がある。

学区内には崖のそばに建つ住居があることから土砂災害の危険性もある。また冬期間は積雪が多く、常に除雪を必要としている。

毎年の地域防災訓練においては学校としても参加し、地域特性を確かめながらマニュアル等の改善を図っている。

2 目指す児童生徒の姿

2 - 4

【自助】 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童

【共助】 非常時に進んで他の人や地域と協力することができる児童
ただし自分の安全、健康を確実に確保できた場合においてとする。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

地域と連携した防災教育

4 児童生徒の変容

27年度から学校の授業日として地域の防災訓練に参加している。このことを通して児童の防災に関する知識・技能が高まってきている。

5・6年生が、地域の方から震災当時の話を聞いたり、作並合同防災訓練で学習したことを発表したりすることで、知識・技能が深まった。

また1～4年生は、5・6年生の発表内容を見聞きしたり、学習内容を知ったりすることで防災の学習への意欲を高めることができた。

5 実践の具体

1 作並合同防災訓練 (10/1)

地域の方々とともに、「シェイクアウト訓練」「濃煙体験」「発災型対応訓練」「非常メッセージ発信(校庭にSOS)」「避難所開設訓練」「エコノミー症候群防止体操」「炊き出し訓練」等を行った。

「防災学習成果発表」では、5・6年生が「日用品のできる防災グッズ」の発表を行った。

また、発表内容についての質問紙調査を行った結果、全ての参加者から好評であった。

2 総合的な学習の時間を通して

作並合同防災訓練の発表内容については、総合的な学習の時間において作成した。その後、総合的な学習の時間において、元連合町内会長さんに震災当時の様子の取材をしたり、発表後の質問紙の自由記述欄から今後の課題について検討したりした。その結果、作並地区は、居住者が高年齢層になっていること、居住箇所が密集していないことが課題に挙げた。地域についてさらに考えるということで、現在は非常食について調べ学習を深めている。調べた内容を基に、「私たちが考えたサバ飯(サバイバルご飯)」という形で発表することを考えている。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況进行评估し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教 科	総合的な学習の時間	特 活		道 徳	
4	年間指導計画確認 学区・通学路の安全確認	5年理科「天気の変化」 5年家庭「こんろの安全な取り扱い」			歩み出す力強く (副読本1章②)		いつも全力で (不撓不屈, 希望, 勇気)
5	防犯訓練 家庭訪問	5年社会「国土の地形の特色と人々の暮らし」		災害時をくらすヒント (副読本4章⑥)			
6	避難・引渡訓練(地震)	5年国語「新聞記事を読み比べよう」 5年社会「国土の気候の特色と人々の暮らし」 6年国語「新聞の投書を読み比べよう」 保健「病気の予防」	三校交流学習 「震災当時の様子を知る」	家族防災会議を開こう (副読本4章④)	三校交流学習 「大きな災害にあったとき、生きぬくために必要なこと・物を考えよう」		命がないと始まらない (生命の尊重)
7		5年家庭「できるようになったかな家庭の仕事」		チャレンジ!子ども防災モニター (副読本4章⑥)		もうすぐ夏休み	一ふみ十年(自然愛, 動物愛護)
8	学区・通学路の安全確認						
9	地域清掃	5年国語「パネル討論しよう」 6年国語「資料を活用して書こう」 6年算数「拡大図と縮図」 体育「着衣水泳」	震災について 自分の課題に沿って情報を収集する		災害に備える (副読本4章③)		[地球を救う]愛華さんからのメッセージ (自然愛, 動植物愛護)
10	作並合同防災訓練 (10/1)	5年理科「台風と天気の変化」理科「流れる水のはたらき」 (副読本3章③) 6年理科「大地のつくりと変化」 (副読本3章②)	地域の安全・安心を考えよう (授業づくり訪問)				世界中の子どもたちと共に (勤労・社会への奉仕)
11	避難訓練 (火災)	体育「心と向き合って」 (副読本4章⑧) 6年理科「てこのはたらき」	震災時の様子を下級生に伝えよう	立ち上がれ!ぼくらの復興プロジェクト (副読本2)			親から子へ, そして孫へと (郷土愛)
12		5年社会「社会を変える情報」 (副読本3章④) 6年社会「災害から人々を守る」 (副読本5章②)	非常食レシピを考えよう	未来へつなぐ (副読本2章③)		もうすぐ冬休み	
1	「地震対応マニュアル」の見直し	6年理科「電気とわたしたちの暮らし」6年家庭「考えようこれからの生活」	非常食レシピを工夫しよう				東京大空襲の中で (生命の尊重)
2	「地震対応マニュアル」の見直し	5年社会「わたしたちの生活と森林」 6年社会「つながる～世界の国々と～」 (副読本5章①) 保健「けがの防止」	非常食試食会を開こう		防災知識をチェックしよう (副読本6章①)		わたしのボランティア体験 (勤労, 社会への奉仕) 土石流の中で救われた命 (尊敬感謝)
3		5年社会「自然災害を防ぐ」 6年理科「人と環境」			防災知識をチェックしよう (副読本6章①)		

仙台市立 大倉 小学校

担当者 亀山 あや

1 学校・地域の実態 → 1・4

児童：全校のほとんどが小さい頃から互いをよく知っているため学校生活で困っている友達がいると必ず誰かが助けたり、声掛けをしたりする様子が見られる。また、素直で避難訓練などにも真剣に取り組む。一方、震災などで困ったという経験をしている児童は、ほばいないため危機感はない。

保護者：山間部の地域であるため、日常的に生活必需品を備蓄している家庭が多い。また、各家庭と学校の距離が離れているため、災害時の引き渡しに時間を要する。

地域性（合同訓練など）：連合町内会が四つあり、3年前から冬に地域合同訓練を行っている。地域の過疎化も進んでおり、高齢者が増えている。

東日本大震災：家屋や建物への大きな被害はなかったため、避難所を利用する住民は誰もいなかった。

学区内の地理、自然環境：土砂崩れなどにより、学校へ避難する他地域とつながる交通手段が失われることが考えられることから土砂災害危険地域となっている。大雨が降ると道路が陥没しやすい場所も数か所ある。また、冬期間は積雪が多く道路状態が非常に悪くなる。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

(自助) 災害に関する基礎的な知識や対応方法を身に付け、災害が起きても落ち着いて行動し、身を守ることができる児童

(共助) 災害時やその後の対応と復興に向けて、互いに協力し合って進んで行動できる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

地理や自然環境を考慮した防災教育

4 児童生徒の変容

避難訓練などを通して防災に関する知識が少しずつ増えてきている。教師の指示がなくても、地震などが起きたときは黙って頭を隠すなどその場に応じた行動ができるようになってきた。

5 実践の具体

(1) 「大きな災害にあったとき、生きぬくために必要なこと、ものを考えよう」(学級活動)

上愛子小学校、作並小学校との3校交流学习で6年生が防災に関しての授業を行った。その授業を基に各学校で防災について更に内容を掘り下げていった。本校では、自分たちの地域に必要な防災訓練とは何かについて調べ、新聞にまとめた。地域によって起こる自然災害は変わること、自分たちの住む場所について知ることがこれからの防災を考える上で大切であることを学んだ。

(2) 「避難する場所は、どこかな？」(学級活動)

地震、火事、ミサイルなど、時と場合によって避難の仕方が変わるためそれぞれの場に応じた訓練を行った。休み時間も活用し、教師がいない場所でも落ち着いて放送を聞き、自分たちで避難することができるようにした。また、訓練をする際は「なぜ、この場所なのか」「なぜ、この行動をするのか」を考えさせ学校以外の場所で起きたときも自分たちで考えて行動できるように指導した。



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

1年 防災教育年間指導計画

1 目標

- 校舎内や自宅などにおける災害時の危険や避難の仕方を知り、自分の身を守ることでできる児童を育成する。
- 友達や家族など身近な人々に対して関心を持ち、自分でできることを進んで実行できる児童を育成する。

2 自助・共助の視点(具体的な児童像)

- 【自助】災害時の危険について知り、落ち着いて大人の指示に従って行動しようとする児童
- 【共助】友達や家族と協力し、働こうとする児童

3 指導計画

月	教科 領域等	単元名	時数	防災対応能力			関連資料	
				知識	技能	態度	新防災教育副読本	道徳副読本
4月	学校行事	避難訓練(地震)	1	○	○		第1章-1 「あの日2011.3.11.」 第1章-2 「いっしょに前へ」 第4章-5 「家族ぼうさい会ぎをひらこう」 第4章-6 「ぼうさいリュックを用意しよう」 第5章-5 「わたしたちにできること」	
	道徳	2-(1) 礼儀	1			○		2 「あいさつ」
	体育	ならびっこ	1			○		
	生活	学校探検	2			○		
5月	生活	固定遊具を使った運動遊び	1			○		
	道徳	1-(1) 節度ある生活態度	1			○		6 「あっ あぶない」
	算数	何番目		○	○			
	生活	季節の探検隊 春!	1			○		
	体育	走の運動遊び	5			○		
6月	体育	体力テスト①	4			○		
	道徳	3-(1) 生命の尊重	1			○	第1章-3 「たった一つのもの」	8 「どきどき どっきんぐ」 9 「橋の上のおおかみ」
	道徳	2-(2) 思いやり・親切	1			○		
	体育	プール開き	1	○		○		
7月	体育	水遊び(6~9月)	10			○		
	学校行事	校外学習①	5			○		
	算数	何時 何時半	8	○	○			
8月	学級活動	夏休みの過ごし方	1	○				
	生活	季節の探検隊 夏!(8~9月)	10			○		
9月	学校行事	校外学習②	5			○		
	体育	走の運動遊び	5			○		
10月	道徳	2-(3) 信頼友情	1			○		26 「二羽の小鳥」
	道徳	3-(1) 生命の尊重	1			○	第1章-3 「たった一つのもの」	16 「ハムスターの赤ちゃん」
	道徳	2-(3) 信頼友情	1			○		11 「こころはっぱ」
	体育	体力テスト②	4			○		
11月	学校行事	避難訓練(火災)	1	○	○			
	国語	日づけと曜日	4	○				
	生活	季節の探検隊 秋!	11			○		
	生活	焼きいも大会をしよう	1			○		
12月	学校行事	校外学習③	5			○		
	道徳	2-(2) 思いやり・親切	1			○		24 「よかったねさっちゃん」
	生活	きせつの探検隊 冬!	4			○		
1月	学級活動	冬休みの過ごし方	1	○				
	学校行事	スキー教室 (グループ別の安全な行動)	1			○		
	道徳	2-(2) 思いやり・親切	1			○		28 「僕の花咲いたけど」
2月	体育	鬼あそび	4			○		
	道徳	3-(1) 生命の尊重	1			○	第1章-3 「たった一つのもの」	29 「命があつてよかった」
	算数	何時何分	2	○	○			
3月	生活	もうすぐ2年生(2~3月)	18			○		
	道徳	2-(1) 礼儀	1			○		33 「心を込めて」
	道徳	4-(4) 愛校心	1			○		34 「もうすぐ2年生」
	学級活動	春休みの過ごし方	1	○				
他	学級活動	復興プロジェクト				○		
	学級活動						第5章-6 「つたえよう わたしたちの言葉で」 第6章-1 「防災知識をチェックしよう」	

仙台市立 広陵 中学校

担当者 鈴木 孝昌

1 学校・地域の実態

1・4

- ・生徒：東日本大震災では、家屋の倒壊などの被害が少なかったことから、すでに実感が薄れているが、やや大きな地震の際には自分から机の下などに身を寄せて、安全を確保する行動をとることができる。
- ・保護者：共働き世帯等が多いが、学校行事には積極的に参加をし、協力的である。
- ・地域性（合同訓練等）：青葉区西部のほぼ半分を占める広大な学区のため、すべての町内会が一堂に会しての合同訓練は難しいが、学校周辺の3町内会合同による防災訓練を実施した際には、多くの方々が参加した。
- ・東日本大震災：校舎内外の壁面に亀裂が生じた。避難所には当日のみ避難者があった。
- ・学区内の地理、自然環境：学校敷地の北西部が崖になっており、土砂災害危険箇所及び土砂災害警戒区域となっている。また、学区内にも多くの危険箇所、警戒区域が指定されている。以前大雪による国道への土砂崩れがあり、多くの避難者が学校に隣接する宮城西市民センターに避難した。

2 目指す児童生徒の姿

1・4

- (自助) 災害、特に地震や大雨に伴う土砂災害等に関する正しい知識を身に付け、避難地域や場所について理解させ、自らの安全を確保できるようにする。
- (共助) 過疎化と高齢化が進んでいる地域で活躍できるように、地域社会とのコミュニケーション力を高め、進んで関わろうとする心情や態度を育てる。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

地域や自然環境を考慮し、保護者や地域と連携した防災教育

4 児童生徒の変容

- ・地震を想定した避難訓練では、自ら安全を確保することができた。また、地震後の火災を想定した避難訓練は休み時間に実施したが、安全の確保と整然とした避難を行うことができた。
- ・合同防災訓練では、地域の方々と協力する「共助」の態度を身に付けようとする姿勢が見られた。

5 実践の具体

(1) 防災講座「自然災害の基礎知識と合同訓練について」(平成29年7月2日(日))

仙台市立仙台工業高等学校、竹 幸宏教諭より、①身近に行う防災対策(日頃からの備え)、②災害について知る、③地震について、④自ら進んで防災訓練に参加しよう、の4観点について講話をいただいた。生徒は真剣に講話を聞き、災害に対する正しい知識について理解を深めようとした。



(2) 3町内会合同防災訓練(平成29年7月2日(日))

防災士、菅原純一様(元宮城西市民センター長)の監修により、①避難所運営準備訓練、②個別訓練(土のう訓練、救出・救助訓練、応急・救護訓練、炊き出し訓練)、③体験型イベント(防災クイズ)の3つの活動を行った。生徒は各種訓練に、地域の担い手として積極的に取り組んだ。



(3) 避難訓練(平成29年6月29日(木))

年2回の避難訓練の1回目として、地震を想定して行った。生徒は机の下などに身を寄せ安全を確保し、その後の避難行動も整然と行った。

(4) 避難訓練(平成29年11月14日(火))

休み時間に実施した。地震後に火災が発生した想定であったが、安全確保や避難行動を整然と行った。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

第3学年 防災教育年間指導計画

☆重点目標

- ・復興に向けて活動する人たちの気持ちを理解し、進んで公共のために役立とうとする「公助」の心を育てる。
- ・宮城の復興は自分たちの力で実現させるという強い意識を育てる。
- ・話し合い活動を通して互いに意見を交わし防災対策の面から地域を見る目を養う。

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度		
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的「内容」	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容		
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳・防災副読本	
	4	・校内安全点検 ・3年修学旅行	・「集団訓練」(保体)		・安全な登下校指導と通学路の確認 ・避難方法避難経路の確認 ・学校防災マニュアル、連絡網確認	・修学旅行の緊急時の対応 ・伝言ダイヤル
5	・校内安全点検 ・故郷復興プロジェクト	・「ポツダム宣言と日本の敗戦」(社会)			・交番、消防署等清掃ボランティア	・個性を伸ばす1-(5) ・役割と責任4-(4) 5章-3地域の一人として(防副)
6	・校内安全点検 ・市中総体 ・地域防災訓練	・エネルギー・鉱産資源の生産と消費(地理) ・「エネルギー変換に関する技術」(技家)	・過去の震災から学ぶ ・緊急時の対応の仕方	・市中総体時の災害発生への対応指導 ・避難所設営時の補助	・宮城県沖地震を教訓に日常での防災意識を高める	・郷土愛4-(8) ・生命の尊重3-(1)
7	・校内安全点検 ・故郷復興サミット		・地域ハザードマップ作成	・危険箇所調べ	・夏季休業中の安全な生活	・自然愛護3-(2) ・勤労、社会への奉仕4-(5)
8	・校内安全点検	・「集団社会の中で生きるわたしたち」(公民)				
9	・校内安全点検 ・広陵祭		・被災地の現状を知る(南三陸町)	・被災地の現状を知る(南三陸町)	・被災地の現状を知る(南三陸町)	・人間愛、感謝と思いやり2-(2) 6章-2「学びの窓東日本大震災の記録」(防副)
10	・校内安全点検	・地方政治と自治 ・地方自治の制度 ・住民参加の拡大(公民)		・市新人戦時の災害発生への対応指導	・秋季休業中の安全指導	・社会連帯4-(2) ・生命尊重3-(1)(3)
11	・校内安全点検 ・故郷復興プロジェクト	・地域財政 災害復興費 ・住民参加(公民)	・「災害時に中学生ができること」	・防災訓練 ・「災害時に中学生ができること」	・交番、消防署等清掃ボランティア	・愛校心4-(7) ・人類愛4-(10) ・1章-3語り部として(防副)
12	・校内安全点検	・「自然と人間」(理科) ・「資源・エネルギー問題」(理科)			・冬季休業中の安全な生活	・自主自律1-(3)
1	・校内安全点検	・「共に健康に生きる社会」(保体) ・「よりよい社会を目指して」(公民)				・自然愛護、畏敬3-(2) ・勤労、福祉4-(5) 2章-5「花と緑で人々に笑顔を」(防副)
2	・校内安全点検	・「自然と人間」(理科) ・「資源・エネルギー問題」(理科) ・「よりよい社会をめざして」(公民)				・家族愛4-(6) ・思いやり2-(2)
3	・校内安全点検 ・故郷復興プロジェクト		・支援者に感謝のメッセージ(3.11に思うこと文集づくり)	・被災者へ励ましのメッセージ(3.11に思うこと文集づくり)	・春季休業中の安全な生活	・生命尊重3-(1) ・2章-1・2絆を力に・約束(防副)

仙台市立 北仙台 小学校

担当者 石山 雄志

1 学校・地域の実態 1 - 2

- ・**児童生徒** これまで大きな被害を経験しているわけではないが、指導した内容を意識して行動する児童が多い。緊急の放送が流れると瞬時に静かになり、放送に聞き入る姿や迅速な避難行動が見られる。学区が広いため、児童一人一人が自分の地区の特徴を捉えて、災害時に落ち着いて行動し、身を守る指導を行う必要がある。
- ・**保護者** 共働きの世帯が比較的多いが、集団下校では雨天時にも拘わらず、住宅付近で見守りを行ったり、引き渡し訓練等では、積極的な参加が見られたりするなど、協力的である。PTAで安全マップを作成するなど防災への意識が高い。
- ・**地域性** 北仙台地区防災協議会（県・市議会議員、町内会長、日赤、社会福祉協議会、地域防災ネットワーク、小・中学校等）があり、震災前から定期的に会議や研修（水の森防災学校）を行っている。
- ・**学区内の地理、自然環境** 校舎北側に急傾斜地崩壊危険箇所があり、また大雨により冠水しやすい地区や道路等がある状況である。

2 目指す児童生徒の姿 1 - 2

- （自助）災害に対する基礎的な知識や対応方法を身に付け、災害時に落ち着いて行動し、身を守れる児童
- （公助）災害時やその後の対応に向けて、互いに協力し合って行動できる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・児童の発達段階に応じた基礎的な知識や対応方法を身に付ける防災教育

4 児童生徒の変容

- ・業間時に行った避難訓練や弾道ミサイル対応訓練では、教室にいた高学年児童が教師の指示がなくても、瞬時に防災頭巾を身に付けて避難を行う姿が見られるなど、既習事項を生かして自主的に行動する姿が見られるようになってきている。

5 実践の具体

1 単元名「ちゅうい！家のまわり 学校のまわり」（1学年 学級活動）

- ・ねらい 登下校時に地震が発生した場合の危険な箇所を見つけ、身を守るための方法を考える。
- ・手だて 手だてⅠ：通学路の写真を提示し、考えられるようにする。（ワークシート）
手だてⅡ：危険な箇所や身を守るための方法を共有化できるようにする。

・児童の様子

通学路の写真に赤鉛筆で印をつける活動を通して、災害時には看板や信号機などが転倒してしまう危険性があることを知り、災害に備える意識が高まった。



2 単元名「地域のためにできることを考えよう」（6学年 学級活動）

- ・ねらい 避難所で自分たちができることを考える。
- ・手立て 手立てⅠ：自分の意見を持つために、総合防災訓練のビデオから避難所の様子を理解できるようにする。
手立てⅡ：立場を明確にして話し合いをするために、ワークシートにまとめる。

・児童の様子

地域の方々が避難所を運営し、小・中学生の参加者が少ない様子から、子供たちは大人に頼っている意識が強いことを実感していた。避難所の様子を理解することで、一人一人が自分の意見を持つことができた。

3 提案

資料を、避難所（避難活動）を、
避難→大人とこの活動をやっていたのは、お年より
の活動で、手とまひか、手の方が早く
できるから。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳		
	関連行事等						
4	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式 ・始業式 ・地震想定避難訓練 ・交通安全教室(1年) ・1年生を迎える会 			<ul style="list-style-type: none"> ◇安全な歩行(登下校指導) ◇避難経路・方法の確認(地震想定避難訓練事前・事後指導) 		●その向こうに(役割・責任)	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・遠足 ・交通安全教室(2~6年) ・児童引き渡し訓練 ・集団下校訓練 	家庭科 「トライ!エコ生活」		<ul style="list-style-type: none"> ◇災害(地震)のとき(児童引き渡し訓練事前指導及び集団下校事前指導) 		<ul style="list-style-type: none"> ●ロレンソの友だち(信頼・友情) ●涙そうそう(生命尊重) 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・業間発生地震避難訓練 ・若草タイム(たてわり活動) ・授業参観(防災) ・若草まつり 	国語 「問題を解決するために話し合おう」 家庭科 「洗たくをしてみよう」		<ul style="list-style-type: none"> ☆避難所で協力し合う気持ちを高めよう(クロスロード使用) 	・若草まつりを成功させよう	●自分の気持ちをおしゃべりしあおう(個性の伸長)	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・若草タイム(たてわり活動) ・故郷復興プロジェクト 				・夏休みのくらし方について	●ごみ出しまかせて(集団参加)	
8	(地域行事への参加)						
9	<ul style="list-style-type: none"> ・若草タイム(たてわり活動) ・若草オリエンテーリング 	保健 「病気の予防(1)」		<ul style="list-style-type: none"> ☆災害時をくらすヒント(4-⑥) ☆防災訓練の様子を調べよう 		●姉妹で運ぶ物資と笑顔(勤労・奉仕)	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・若草タイム(たてわり活動) ・野外活動(5年) ・修学旅行(6年) 	理科 「大地のつくり」		<ul style="list-style-type: none"> ☆避難所でできることを考えよう ☆家族防災会議を開こう(4-④) ・修学旅行時の避難の仕方について 		・人間コピー機ゲームをしよう(信頼・男女協力)(たく生きプログラム)	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・若草タイム(たてわり活動) ・学会会 ・火災想定避難訓練 ・故郷復興プロジェクト 	理科 「変わり続ける大地」 家庭科 「身近な食品でおかずをつくらう」		<ul style="list-style-type: none"> ☆避難所でできることを提案しよう ◇災害(火災)のとき(訓練事前・事後指導) 			
12	<ul style="list-style-type: none"> ・若草タイム(たてわり活動) 	保健 「病気の予防(2)」				●知らんぷりはできないよ(思いやり)	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・若草タイム(たてわり活動) 	社会 「わたしたちのくらしと日本国憲法」					
2	<ul style="list-style-type: none"> ・若草タイムお別れ会(たてわり活動) ・スキー教室(5・6年) 	家庭科 「感謝の気持ちを伝えよう」 社会 「世界の中の日本」			・学校が喜ぶことをしよう		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生を送る会 ・卒業式 ・修了式 					●卒業まで五十日(愛校心)	

◇…安全の副読本を活用
 ☆…防災の副読本を活用
 ●…道徳の副読本を活用

仙台市立 北仙台 中学校

担当者 道林 英樹

1 学校・地域の実態

1・4

- ・児童生徒：東日本大震災から6年が経過し、地震に対する意識が低くなってきている生徒が多い半面、配慮が必要な生徒もあり、地震を授業で扱う題材では細心の注意を払う必要があるのが現状である。
- ・保護者：日中仕事に従事している家庭が多いが、学校行事等への参加率は高く、協力的な家庭が多い。
- ・地域性：学区内には21の町内会があり、それぞれの町内会で防災訓練を実施しているが、集会所施設を持たない町内会では、学校と連携した防災訓練の実施を望む声もある。町内会だけでなく、地域内の各種団体と連携した北仙台地区防災協議会が設置されており、年3回、水の森防災学校として防災に向けた研修が行われている。また、今年度は青葉区総合防災訓練も9/10に行われた。
- ・東日本大震災：避難されてきた住民は多かった。しかし、体育館や北校舎が少し傾くなどの影響も見られる中での避難所運営等についてはほとんど手探り状態であった。
- ・学区内の地理、自然環境：地理的条件として高低差の大きな地域となっており、学校北西側は崖になっている。大雨による冠水が心配される地域が数か所あり、冬季には凍結する坂道も多い。

2 目指す児童生徒の姿

2・4

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる力を育成する。
- (共助) 非常時に進んで他の人や地域の力になろうとする心情や態度を育成する。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・総合的な学習の時間を利用した防災教育
- ・地震だけでなく、地理・自然環境を考慮した地域防災教育

4 児童生徒の変容

災害に対峙したときの危険性や対応方法についての知識を深め、自らの安全確保に向けた対応方法についての理解を深めた。また、協力しようとする姿勢も以前より見られるようになった。

5 実践の具体

- (1) 「自分の身は自分で守る」の実践授業（仙台版防災教育副読本 P36 を利用）
 - 急に地震が来た場合、どんなところに危険があるか話し合おう。
- (2) 学校登校時に災害が発生した場合の避難経路及び引き渡し方法・班編成の確認。
- (3) 復興プロジェクトへの取り組みや復興ソングを歌うことで災害の記憶を風化させない取組。
- (4) 青葉区総合防災訓練の実施
 - 避難所運営準備訓練
 - 個別訓練
 - 体験型イベント
- (5) 学校として、水の森防災学校への参加を通して、地域と学校の関わりを深めながら、防災訓練の地域と学校の連携推進

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

第1学年 防災教育年間指導計画

○重点目標

- ・災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、冷静に判断し、自らの安全を確保できる力を養う。(自助)
- ・震災を経験したことを糧とし、命の大切さ、他人を思いやる心、困難に打ち勝つ強い心、夢を持ち積極的に生活できる心を身に付ける。(心の教育)
- ・地域の一員として、非常時に進んで人や地域の力になり、行動できる力を身に付ける。(共助)

防災対応の要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特別活動	道徳		
4	・校内安全点検 ・安全な登下校指導と通学路の確認 ・避難方法と避難経路の確認 ・災害時引渡し方法と集団下校の確認 ・学校防災マニュアルの確認	技・家：「衣生活・住生活と自立」 保健：「集団訓練」 数学：「音の光と距離の関係」		防災副読本 1章①東北地方太平洋沖地震発生			
5	・校内安全点検 ・連絡網の確認 ・防犯こどもを守るうデー ・復興プロジェクト① ・野外活動、校外学習、修学旅行事前指導	技・家：「衣生活・住生活と自立」 保健「応急処置の方法」	防災副読本 2章①絆を力に一歩ずつ				
6	・校内安全点検 ・防災避難訓練 ・市中総体災害発生時への対応指導 ・科学館学習(会場までの安全指導・災害時について等) ・水の森防災学校①	社会：「地域調査に出かけてみよう」「身近な地域の歴史」 技・家「衣生活・住生活と自立」	防災副読本 4章②自分を守る				【世界の人々のために】 9. 命を助けたい 4-(10)国際理解と平和・人間愛
7	・校内安全点検 ・合唱コンクール(会場までの安全指導・災害時について等) ・夏季休業中の安全指導 ・環境美化作業 ・安全教室 ・北仙台地区防災協議会① ・県中総体時の災害発生時への対応指導 ・教育相談 ・復興プロジェクト②	技・家：「衣生活・住生活と自立」 国語：「雲とパイナップル」体験したことをもとに、説得力のある文章を書く 保健：「水泳」「心肺蘇生法」		防災副読本 2章④助け合うって素晴らしい			
8	・校内安全点検 ・校区街頭指導 ・長生園訪問	技・家：「衣生活・住生活と自立」 国語：「大人になれなかった弟たちに…」時代や状況をとらえ、自分を見つめ、生き方を探めていくことの大切さを考える					
9	・校内安全点検 ・北中祭 ・水の森防災学校② ・青葉区総合防災訓練 ・校区街頭指導	理科：地震が起る仕組み 英語：道順を尋ねる言い方と教える言い方	防災副読本 3章②3.11の地震を科学の目でとらえよう				【集団の中での協力】 16. 全校位置をめぐして 4-(4)役割と責任の自覚 集団生活の向上
10	・校内安全点検 ・防犯こどもを守るうデー ・新人大会災害発生への対応指導 ・校区街頭指導 ・運動会(災害時について等)	技・家：「材料と加工に関する技術」 数学：「比例と反比例」地震の揺れが伝わる時間と距離の関係を考える	防災副読本 4章④家底でできる災害への備え				【生命の尊さ】 4. 花に寄せて 3-(1)生命の尊重 【奉仕の精神】 10. 楽善号に乗って 4-(5)勤労・社会への奉仕、公共の福祉
11	・校内安全点検 ・教育相談 ・防犯こどもを守るうデー ・復興プロジェクト③ ・校区街頭指導 ・避難訓練&地域清掃 ・2年職場体験(会場までの安全指導、災害時について等)	技・家：「材料と加工に関する技術」 保健：AEDの使い方	防災副読本 4章⑥知っておきたい心肺蘇生の方法とAEDの使用				【命を見つめ命を支える】 24. 決断！骨髄バンク移植第1号 3-(1)生命の尊重 防災副読本 5章①心をみたます食べ物をお届けする
12	・校内安全点検 ・防犯こどもを守るうデー ・校区街頭指導 ・救命救急講習(2年) ・天文台学習(会場までの安全指導、災害時について等)	技・家：「材料と加工に関する技術」 数学：「平面図形」地震の震源地はどこだ	防災副読本 3章④仙台平野 災害の歴史を学ぼう				
1	・校内安全点検 ・復興プロジェクト④ ・防犯こどもを守るうデー ・校区街頭指導 ・水の森防災学校③	技・家：「材料と加工に関する技術」 理科：「大地の変化」 保健：「心身の機能の発達と心の健康」 数学：「空間図形」震源地はどこだ	防災副読本 4章⑥知っておきたい心肺蘇生の方法とAEDの使用				【国際社会への貢献】 28. 日本から来たおばさん 1-(4)心理愛・真実の追求・理想の実現
2	・校内安全点検 ・防犯こどもを守るうデー ・校区街頭指導	理科：「大地の変化」 技・家：「情報に関する技術」 防災副読本 4章⑦心の健康を守るために					【よりよい社会を目指して】 17. 本が泣いています 4-(2)公共心・社会連帯の自覚
3	・校内安全点検 ・卒業生を送る会(災害時について等) ・卒業式(災害時について等) ・復興プロジェクト⑤ ・環境美化作業 ・防犯こどもを守るうデー ・校区街頭指導	技・家：「情報に関する技術」 英語：「体調を説明する」 保健：「心身の発達と心の健康」		防災副読本 6章①防災知識を チェックしよう			【生きることの大切さ】 34. 見沼に降る星 3-(1)生命の尊重

仙台市立 南小泉 小学校

担当者 綱島 雄太郎

1 学校・地域の実態

1 - 4

- ・児童生徒：東日本大震災から6年が経過して、震災未経験の児童が存在し、震災に対しての恐れや備えに対する意識の薄れが見られる。学区が広く、周囲の学校区から変更して通っている児童も多く、安全を自ら考えて、自らの安全を守ろうとする意識と共に、周囲と協力して安全を確保するための行動ができるように指導を行う必要がある。
- ・保護者：共働きの世帯が多く、祖父母と同居している世帯も一定数ある。
- ・地域性（合同訓練等）：連合町内会が二つあるが、それぞれの町内会の主な避難場所が本校と南小泉中学校に分かれているために、それぞれの町内会で防災訓練を行っている。学校は一部連携をしている。今後、学校としては、小中学校を含めた合同の防災訓練の実現を目指している。
- ・東日本大震災：学校にある建造物への被害は少なかった。隣接する南小泉中学校の被害もあり、避難所を利用した住民は、津波被害を受けた方々も含めて学区外から移ってくる方もいた。避難所運営は周辺避難所と協力しながら行った。
- ・学区内の地理、自然環境：交通量の多い道路が多い一方、住宅地の細い道は入り組んでいる。大雨や積雪の際には交通傷害が起こりやすい。七郷堀、高砂堀といった水路が通っていて、東日本大震災の際は堀に津波が確認された。

2 目指す児童生徒の姿

1 - 2

- (自助) 災害に関する基礎的な知識や対応方法を身に付け、災害時に落ち着いて行動し、身を守る児童
 (共助) 災害時やその後の対応と復興に向けて、互いに協力し合って進んで行動できる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

児童の発達段階に応じた防災対応力を高める防災教育

4 児童生徒の変容

- ・災害についての意識が確実に高まり、災害に応じて必要な対応への知識や意識が身に付いてきた。
- ・地域と協力し合うことの重要性を認識し、自分たちができることをしようという意識が高まってきた。

5 実践の具体

(1) 5学年「自分でできること」(体育・保健)の授業実践

体育科(保健)の「けがの防止」の学習内容について、今年度2回目の授業参観で防災教育の一例として実施した。自助と共助という言葉について確認をし、自助の一つとして応急手当を取り上げて、実践をしながら保護者と一緒に学んだ。

(2) 5学年総合的な学習の時間「輝け 南小イルミネーション」の授業実践

「エネルギー教育」を実践していく中で、エネルギーの適切な使用やその効果について学んだ。その中でLED電球の省エネルギー性能を学び、明かりの効用として人の気持ちを安らげる効果があることを考え、自分たちに出来ることの一つとしてイルミネーションを設置し、地域に思いを発信した。

(3) 避難訓練(学校行事)、校外学習の際に仙台版防災教育副読本を活用

災害や命に関わる事件や事故を想定して、訓練を行う前後や、校外学習などの留意点を考えさせる場合に、「わたしたちの安全」(日本標準発行)とともに、仙台版防災教育副読本を活用した。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

仙台市立南小泉小学校防災教育年間指導計画

第 5 学年

防災対応能力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳		
4	学区・通学路の安全確認 緊急メール連絡網作成 避難経路確認 児童自宅確認					☆災害が起きたら	
5	児童自宅確認 避難訓練(不審者想定) 全校集会(顔合わせ) 故郷復興プロジェクト			◇校外学習での安全 ◇命を守る		☆復興へ今を力強く	
6	集団下校① 避難訓練(地震想定) 引き渡し訓練	・自分でできること(体育・保健) ☆「応急手当の方法と救急車の呼び方」		◇災害の時	☆災害に備える	3-3敬けん	
7	故郷復興プロジェクト②	☆「心と向きあって」(体育)		◇夏の安全	夏休みの生活	3-1生命の尊重	
8		☆つながる～世界の 人々と					
9		・台風と天気の変化(理科) ☆大きな災害と人間の心の動き(体育)					4-3社会的役割の自覚と責任
10		・流れる水のはたらき(理科) ☆「いろいろな自然災害」(理科)					
11	避難訓練(火災想定) 故郷復興プロジェクト③			野外活動	☆災害時をくらすヒント	4-4勤労・奉仕	
12	集団下校②	☆災害時の情報手段(社会) ☆立ち上がればくらの復興プロジェクト		◇冬の安全	冬休みの生活		
1							2-2思いやり・親切
2		・自然災害を防ぐ(社会)					2-5尊敬感謝
3	故郷復興プロジェクト④				春休みの生活		

仙台市立 遠見塚 小学校

担当者 小幡 潤

1 学校・地域の実態 → 1・4

- ・児童生徒：全校児童数は373名で、学級数は15学級（特別支援学級2学級含む）である。東日本大震災後に、新しい校舎や体育館ができ、校庭も整備されたため、今現在、震災の痕跡は殆ど残っていない。そのためか、震災の記憶が年々薄れてきている。
- ・保護者：本校を卒業した保護者も多くおり、協力的な家庭が多い。
- ・地域性：遠見塚小学校区総合防災訓練を実施した。実施日は授業日ではない土曜日であったため、児童・保護者に対しては自由参加としたが、6年間で一度は訓練に参加するよう案内を出した。
- ・東日本大震災：校舎の倒壊はなかったが、外壁が剥がれたり、壁や天井の断熱材が崩れ落ちたりする被害があった。初日に避難所を開設した際には、地域住民570名が避難してきた。
- ・学区内の地理、自然環境：本校は東経140度、北緯38度の位置にあり、海拔は11,58mである。東隣に遠見塚古墳があり、バイパスを隔てて霞目飛行場と接している。霞目飛行場一帯の堅穴式住居の遺跡と地域内いたるところを流れる六郷・七郷・佐久間等の用水堀は、先人の努力と自然との闘いを物語っており、幾世紀にもわたる人間の生活の跡を知ることができる地域でもある。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

- (自助) 災害に対する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し臨機応変に自らの安全を確保できる力を身に付けた児童。
- (共助) 非常時に進んで他の人や地域の手助けとなる児童。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

保護者や地域と連携した防災教育

4 児童生徒の変容

- ・防災に関する知識は着実に増えてきている。

5 実践の具体

(1) 授業参観日の防災に係る授業と引き渡し訓練

- ・あらゆる状況に対応するために、例年の教室とは違う体育館での実施を試みた。
- ・「避難所等周辺地図」やリーフレット「震災から身を守るために」を作成し、配付した。

(2) 震災を風化させない授業の実践

- ・仙台市防災教育副読本の活用
- ・震災当時の本校校舎内外の被害状況の記録写真の活用。

(3) 児童（4年生）による地域防災マップの作成



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画 (第4学年)

仙台市立遠見塚小学校

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳
	関連行事等				
4	・登校指導 ・避難訓練(不審者) ・交通安全教室	・地震や津波から身を守る(社会)		・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認 ★東日本大震災発生(1章①)	・学校の約束
5	・復興プロジェクト ・集団下校訓練(遠見隊対面式) ・自宅確認日	・天気の様子、電気のはたらき(理科) ・水はどこから(社会)	・エコレンジャー大作戦	・集団下校のための縦割活動	・日本のお父さんお母さん(家族愛) ・2(4)尊敬・感謝
6	・避難訓練(地震) ・引渡し訓練		・防災マップ作り	・避難訓練事前事後指導 ★災害が起きたら(4章①)	
7	・地域防災訓練 ・復興プロジェクト	・着衣水泳(体育)			・夏休みの生活 ・4(5)郷土愛 ・はるかのおひまわり(生命尊重)
8	(地域行事への参加) ・登校指導				・地域行事への参加
9				★災害に備える(4章③)	・3(2)自然愛・動植物愛護
10		・もののたいせきと力(理科)		・避難所設置見学 ★取り組もう!ボランティア活動(5章③)	
11	・復興プロジェクト ・避難訓練(火災)	・水のゆくえ(理科)		・避難訓練事前事後指導 ★災害から身を守るために(4章②)	・3(1)生命尊重
12		・県の広がりとからし(社会)			・冬休みの生活
1		・特色ある地域と人々の暮らし(社会)		★震災を乗り越えて(5章④)	・火の山のおじいさん(生命尊重)
2					★一番大切なことは(2章⑤)
3	・復興プロジェクト			★防災知識をチェックしよう(6章①) ★仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・春休みの生活 ★復興へ今を力強く(2章②)

仙台市立 南小泉 中学校

担当者 清野 康博

1 学校・地域の実態

1 - 4

- ・生徒：多くの生徒が地域のボランティア活動や健全育成活動に積極的に参加している。
- ・保護者：学校に対する関心が高く、学校行事を参観する保護者も多い。
- ・地域性（合同訓練等）：数多くの町内会があり、歴史のある学校のため地域の住民にも卒業生が多い。高齢者が多いため、災害時には中学生が頼りとされており、毎年地域合同防災訓練が行われている。
- ・東日本大震災：建物などには大きな被害がなく、設置された避難所には地域以外からの二次避難者が集まった。避難所運営には生徒たちも関わっている。
- ・学区内の地理、自然環境：学校所在地は海近くの平坦地であるが、海岸や大きな河川から離れており、東日本震災時で津波の到達はなかった。大雨による土砂崩れの恐れもなく、河川の洪水の恐れも少ない。地域には古くからの町並みが残り、大規模な建物も多くない。古くからの道路は狭く込み入っているため、避難時には支障が生じる。

2 目指す児童生徒の姿

2 - 4

- 自助 災害に対する正しい知識を身に付け、冷静に判断して、臨機応変に活動できる
- 共助 地域活動へ積極的に参加し、地域への貢献を通して自己有用感を持つことができる

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

保護者や地域と連携した防災教育

4 児童生徒の変容

- ・ボランティア登録者も多く、それ以外の生徒も地域のいろいろなボランティア活動に積極的に参加している。
- ・異年齢の地域の方々との活動を通し、うまくコミュニケーションをとる必要性の意識が高まり、人とどう関わったら良いかを考えるようになってきた。

5 実践の具体

(1) 親子参加型道徳授業参観「アサーショントレーニングを通して」

道徳 内容項目4-(4) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、集団生活の向上に努める
相手との間に良い関係を築くためのやりとりや話し方を身に付けるために、7月と9月に、3学年合同で保護者を交えアサーショントレーニングを実施した。3学年縦割りのグループを作り、保護者もグループに入れ生徒とともに参加した。3つの話し方について話し手と聞き手の両方を体験し、感じたことを他者と共有して、考えを深めた。

(2) 70周年記念式典において、同窓会長から過去に校舎が火災で焼失した南中の歴史の話をいただき、防災についての意識を高めた。

(3) 地域合同防災訓練

本校の学区内には5か所の指定避難所がある。早朝に地震が発生した設定で、いつき避難所から指定避難所に避難する訓練を実施した。その後、本校を指定避難所としている生徒は、地域の方とともに避難所設営訓練を行った。それ以外の生徒は、消防署の指導で、バケツリレーとクロスロードの演習を行い、最後に全体で振り返り活動を行った。

(4) 卒業式での復興ソングの合唱

復興ソングの作詞者が本校の卒業生なので、毎年、卒業生の歌として復興ソングの合唱を行っている。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

仙台市立南小泉中学校防災教育年間指導計画

第1学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活		道徳	
4	入学式 対面式 保護者会	・保体…集団行動 ・家庭…わたしの 成長と家族 家族・家庭と地 域 ・技術…情報と私 たちの生活		・安全な登下校指導 ・学級連絡網の確認 ・部活動における安全指導 ・避難経路の確認		2-(2)優しい心	
5	校外学習 防犯教室 故郷復興プロジェク ト	・家庭…健康と食 生活		・連休の過ごし方 ・旅行的行事における事前指 導		1-(1)日々の心構え	
6	市中総体 第一回避難訓練	・家庭…健康と食 生活		・梅雨時の健康と安全		2-(6) 善意や支えへの感謝	
7	授業参観 合唱コンクール 故郷復興プロジェク ト	・家庭…食品の選 択と保存 ・保体…水泳		・夏季休業中の過ごし方 ・南中祭へ向けての安全指導 ・地区顔合わせ		4-(4) よりよい集団づくり	
8		・保体…水泳					
9	南中祭 70周年記念式典	・家庭…調料理を しよう ・社会…律令国家 でのくらし 権力をにぎった 貴族たち(副読 本使用)		・地域の一員として(副読本使 用) ・防災訓練事前指導		4-(4) よりよい集団づくり 4-(2)公德を尊ぶ心 4-(2)好ましい世の中	
10	市新人大会 南中リンピック 地域合同防災訓練	・家庭…環境に配 慮した食生活		・部活動における安全指導 ・運動会へ向けての安全指導 ・私たちも立ち上がる(副読本 使用) ・災害時の避難方法 ・災害時の連絡方法 ・地域総合防災訓練		4-(1)きまりの意義	
11		・家庭…魚の調理 ・家庭…野菜の 調理					
12	授業参観 保護者会	・保体…心身の機 能の発達と心の 健康(副読本) ・家庭…肉の調理 ・圧力		・冬休みの過ごし方について		4-(5)勤労の尊さ 4-(6) かけがえのない家族	
1						3-(1)生命の尊さ	
2		・理科…動き続け る大地 大地の変化を読 み取る(副読本)				2-(2)思いやり	
3	故郷復興プロジェク ト 卒業式 修業式	・保体…心身の機 能の発達と心の 健康		・春休みの過ごし方について			

仙台市立 蒲町 小学校

担当者 三浦 美奈子 峯 亮

1 学校・地域の実態 → 2, 4

児童：全体的に地震については経験が薄れている児童が多いため、人ごとのように捉えている児童が多い。その中でもプレハブ校舎で過ごした児童が4～6年生は、児童等は防災意識が少しずつ高まってきている。しかし、1～3年生は、防災意識について経験もないために、知識は浅い。

保護者：学校行事に積極的に参加したり協力したりする保護者も多い一方で、家庭の事情により参加や協力が難しい保護者もいる。

地域性：地域合同防災訓練や学区民運動会など、各町内会が協力して学校行事に参加をすることが多い。

東日本大震災：震災後、蒲町中学校を借りての授業、プレハブ校舎での生活を経て、2015年新校舎が建ち、現在に至る。プレハブ校舎では、約3年過ごすこととなり、校庭が狭いために学年ごとに割り当てをして遊んだり、校舎内で工夫して遊んだりした。

学区内の地理、自然環境：学校の周りは、住宅・ショッピングモール・道路建設など環境の変化が激しい。

2 目指す児童生徒の姿 → 2, 4

- (自助) 一人一人の児童が防災についての理解を深め、自分で判断して行動できる力を高めることができる児童
- (共助) 地域の人、異学年の人と協力して、蒲町地域の防災に対する意識を高めることができる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

保護者、地域、小中と連携した防災教育

4 児童生徒の変容

・年々、児童の防災意識が高まってきたように感じる。例えば、避難訓練の取り組み方や地域合同防災訓練時の授業の参加などから、いつ起こるか分からない災害に対して、真剣に取り組む児童が増えてきた。また、話し合い活動も活発に行われるようになってきた。

5 実践の具体

2年「防災リュックを作ろう」



もしもの時のために、防災リュックを用意しよう!! そのリュックの中身には何が必要かな? みんなで考えてみよう!!

4年「もしもの時、どんなそなえが必要」



もしもの時、家ではどんな備えをしておくと、安心か。みんなで考えてみよう!!
まずは、ワークシートに記入して、グループで話し合い活動しよう。

6年「災害時をくらすヒント」



災害が起こった時に、使用できないものがある。その時に、どんな生活が考えられるか!! ペアで話し合ってみよう。互いの意見を聞き合おう。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

安全の本：安全の本も使う。 ■：行事

年間指導計画

蒲町小学校 1-2-3年

月	領域	1年生	2年生	3年生	領域
4	学	■避難訓練(火災)・集合訓練 ＜事前学習＞ひなんのし方を考えよう (4章③) ※安全の本	■避難訓練(火災)・集合訓練※安全の本 いっしょにまえへ(1章②)	■避難訓練(火災)・集合訓練 ※安全の本	学
5		■集団下校訓練	■集団下校訓練	■集団下校訓練 たくさんのおうえん(5章①)	学
6	学	■避難訓練(地震)・引き渡し訓練 ※安全の本 ＜防災訓練の事前学習で扱う。＞ ぼうさいくんれんにさんかしよう(4章⑦) あの日 3.11(1章①) ■防災訓練 ※安全の本	■避難訓練(地震)・引き渡し訓練 ※安全の本 家のまわり学校のまわり(4章①) ※生活科「町探検」で扱う。 ■防災訓練 ※安全の本	■避難訓練(地震)・引き渡し訓練 家ぞくぼうさい会ぎをひらこう(4章⑤) ぼうさいマップを作ろう(4章②) ※社会科「学校のまわり」で扱う。 ■防災訓練 ※安全の本	学社
7			■防災訓練 ※安全の本 生きるためにひつようなもの(4章⑨) ※防災訓練(行事)と関連させて扱う。	■防災訓練 ※安全の本	
9	生	ぼうさいリ्यूクを用いしよう(4章⑥)	つなみについて知ろう(3章②) ※浪分神社(霞の目)のいわれと合わせ て生活科「町探検」で扱う。	雨・風・かみなりについて知ろう(3章②) 地しんについて知ろう(3章①) たった一つのもの(1章③) ※道徳15「健ちゃんをたすける」で扱う。	理 理 道
10	学 道	ひなんじよでのくらし(2章①)	ふっこうをめざして(2章④) 大切なこと(2章⑤) ※道徳18「だっておにいちゃんだもん」 で扱う。	ふるさとを元気に 自分たちにできる こと(2章③)	学
11	行	■避難訓練(休憩時の地震) ※安全の本	■避難訓練(休憩時の地震) ※安全の本 ＜事前学習＞自分できめる(4章④)	■避難訓練(休憩時の地震) ※安全の本	
12	道	動物たちのいのち(5章④)	見つめよう わたしの心(4章⑩)	けがをしたときは(4章⑧) ※保健で扱う。	保
1	道	海をこえてきたおくりもの(5章②)	手をつないで(5章③)	考えよう 友だちのこと(2章②) ※道徳副読本28「いたいたいもち」の 学習時にふれる。	道
2	学	ぼうさい知しきをチェックしよう(6章①)	わたしたちにできること(5章⑤)	つたえよう わたしたちのことば(5章⑥)	学
3	学		ぼうさい知しきをチェックしよう(6章①)	うさい知しきをチェックしよう(6章①) 仙台のさいがい年びよう・ふっこう年 びよう(6章③)	学
		資料数 8	資料数 11	資料数 11	資料数

・「学びのまど・東日本大しんさいのきろく(6章②)」は、他の資料と関連付けて随時活用

・領域の名称 道＝道徳 学＝学級活動 生＝生活 体＝体育 理＝理科 保＝保健 総＝総合的な学習の時間 行＝行事

仙台市立 大和 小学校

担当者 小野寺 善彦

1 学校・地域の実態

1 - 4

- ・児童生徒：東日本大震災から6年が経過し、震災に関する意識が低下し、震災未経験の児童が増加している。地下鉄東西線や国道4号バイパスなどで様々な地域へ移動することも多く、自ら考え、自らの安全を確保するための行動ができるように指導を行う必要がある。
- ・保護者：大部分は会社員であり、全国的な範囲での異動が多い。また、復興住宅と地下鉄東西線も完成した。地域とのつながりに煩わしさを感じ、子供会に参加しない家庭も増えてきている。
- ・地域性（合同訓練等）：毎年1回6月に中学校区合同避難訓練を行っている。今年度は発災時刻もそろえて行った。また、5月には地区合同運動会も行い、地域と学校とのつながりも深まっている。
- ・東日本大震災：体育館が被災し使用できなくなったため、校舎を避難所として開放した。4月10日までの1か月間避難所を開設した。
- ・学区内の地理、自然環境：学区は低地が多く、大雨の際には冠水しやすい道路が多い。H27年9月の関東・東北豪雨では、校舎の周りも一面水で覆われてしまった。

2 目指す児童生徒の姿

2 - 4

- (自助) 自ら危険を予測し、命を守り抜くために主体的に行動できる児童
 (共助) 進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

保護者や地域と連携した防災教育

4 児童生徒の変容

毎月11日がくる度に「防災学習の日」という意識が少しずつだが定着しつつある。また、毎年防災副読本を活用した授業参観を中学校区合同訓練で行い、その後に引き渡し訓練まで行うことで、緊急時の対応について家庭で話し合われる機会となり、望ましい行動が見られるようになってきた。

5 実践の具体

(1) 「災害から身を守るために」(学級活動)の授業実践

4年生で、上学年用副読本p32, 33を活用する。まず、絵を使って自然災害の際にはどこがどのように危ないかを考えさせる。意見を発表して共有した後に、副読本を使って大雨、雷、竜巻などの際にはどのように身を守るかを知る。その後、気象庁作成のDVDを5分程度視聴し、自然災害から身を守るために大切なことを考え、まとめた。授業参観の際に学年で共通して取り組んだ。

(2) 月に1回全校で仙台版防災教育副読本を活用する取組

毎月11日を全校一斉「防災学習の日」として設定し、ワンノートを使って職員に周知徹底する。朝学習の15分間や、学級活動の時間などを活用し、防災副読本を活用した学習を行う。取り扱う内容については、防災教育年間指導計画に沿ったページを学年で相談して取り組むようにしている。

(3) 第5学年総合的な学習の時間「防災」

本校では5年生が、年間を通して防災学習を行う。「震災遺構 荒浜小学校」も見学している。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

平成29年度仙台市立大和小学校防災教育年間計画 第4学年

目指す児童の姿 (中学年)		①災害発生時には、教員や家族、地域の方々の指示に従うとともに、自らの命を守るために適切に行動できるようにする。 ②災害発生時には、進んで家族や友達と協力して助け合うことができるようにする。 ③自然災害について知るとともに、それに備えた学校や地域の防災対策があることを理解する。			
年間指導計画 作成上の工夫		日常的、継続的指導を意識し、実践力を育てる指導を目指す防災教育			
防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活 (「安全の本」 「3.11から未来へ」含む)	道徳
4	交通安全指導 避難訓練(経路確認) なかよし活動 交通安全教室	社会「火事からくらしを守る」 理科「天気の様子と気温」		学活「安全な登下校」 「避難経路確認」 「東日本大震災発生」p4	「みんなのルール」
5	住居確認 なかよし活動 学区民運動会 集団下校訓練	社会「事故や事件からくらしを守る」			「ぼくたちの手で環境を守りたい」
6	避難訓練(地震) なかよし活動 総合防災訓練	社会「水はどこから」 理科「電気のはたらき」		学活「避難訓練の意義」 「災害が起きたら」p30	
7	防犯教室 集団下校訓練			学活「夏休みの生活」	「はるかひまわり」
8	交通安全指導				「生きる」
9	なかよし活動 集団下校訓練	体育「着衣水泳」		「災害に備える」p34	
10	避難訓練(休み時間)			「取り組もう！ボランティア活動」 p52	
11	集団下校訓練 避難訓練(火事) なかよし活動			学活「避難訓練」 「災害から身を守るために」p32	
12	なかよし活動 避難訓練(緊急地震速報)	社会「わたしたちの県」		学活「冬休みの生活」	「心をつなぐひとこと」
1	交通安全指導 避難訓練(Jアラート) なかよし活動	理科「自然の中の水のすがた」		「震災を乗り越えて」p54	
2	集団下校訓練	理科「物のあたらまり方」		「一番大切なことは」p18	「おじいさん、どうぞ」
3	故郷復興プロジェクト			故郷復興プロジェクト 「復興へ 今を力強く」p12 学活「春休みの生活」	
評価 (目指す児童の姿に近づけたか)					

仙台市立 蒲町 中学校

担当者 奥村 智一

1 学校・地域の実態 → 4・5

- ・生徒：東日本大震災から間もなく7年経とうとしており、防災意識が少しずつ薄れてきているものの、地震等の震災に対しては自らの安全確保の行動は適切で、訓練にも意欲的に取り組んでいる。
- ・保護者：共働き世帯が多い。合同訓練や学校行事等も参加者は多く協力的な家庭が多い。
- ・地域性：蒲町小学区、大和小学区に分かれ、さらに学区外に居住する生徒も若干名いる。合同訓練は行っているものの、大きく被災した地域と比較的軽微に済んだ地域で、訓練に対する意識が異なっている。
- ・東日本大震災：建物等への大きな被害はなく、避難所や小学校の授業も行われていた。
- ・学区内の地理、自然環境：被災した地域の再開発や地下鉄東西線の開通等により、地域が大きく変化している。開発のための工事現場が多く、そのための工事車両の往来も多い。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

- 【自助】災害への正しい知識や対応方法を身に付け、冷静に判断し、臨機応変に安全を確保できる生徒
 【共助】災害時に、進んで共に助け合おうとする態度と、他や地域に貢献できる生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・保護者や地域と連携した防災教育 ・道徳の授業と関連した防災教育が課題

4 児童生徒の変容

蒲町中学校区合同防災訓練を行うことで、2・3年生は中学生として地域の力になる自覚をもつようになってきている。1年生は、中学生として、地域に貢献していく共助の意識を持つことができている。

5 実践の具体

(1) 蒲町中学校区合同防災訓練

今年度は6月24日（土）に蒲町中・蒲町小・大和小で発災時間をそろえ、合同で避難訓練を行い、その後、それぞれの指定避難所で活動した。

- 蒲町中学校ではAED、炊き出し、防災無線、仮設トイレ、発電機の五つから一つを選び、基礎訓練を行った。
- 蒲町小学校では、小学生や地域の方と防災MAP作成や発表を中学生が行った。
- 大和小学校では、各町内会の避難場所で、炊き出し訓練、防災MAP作成や震災の講話を聞くなどした。



・炊き出し訓練



・AED講習



・仮設トイレ設置訓練

- (2) 地域連携の一環でアルカス活動として、多くの生徒が三校合同あいさつ運動や、地域の防犯を呼び掛ける地下鉄駅前あいさつ運動などに取り組んでいる。今後は、防災教育とも関連させて、防災意識を高める工夫も行いたい。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況进行评估し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

仙台版防災教育年間指導計画 2年生 仙台市立蒲町中学校

学習内容		知識		技能		態度	
		防災や災害に関する周 辺的・基本的な内容		防災や災害に関する直接的 な内容		防災や災害に関する間 接的な内容	
月	関連行事	各教科	総合	特活	道徳		
4	校内安全点検	・自然災害と防災 (社2) (副読本第3章6)		・緊急時の対応を確認し よう。			
5	校内安全点検 復興プロジェクト①	・分かりやすい日本語 (国 2)		・防災知識をチェックし よう (全学年) (副読本第6章1)		・社会への奉仕(2年)4-(5)	
6	校内安全点検 合同防災訓練			・防災意識を高めよう。 ・避難訓練① (学校行事) ・自助, 共助とは(学活1) (副読本第5章3)			
7	校内安全点検 復興プロジェクト②			・地域の一員として (副読本第5章3)			
8	校内安全点検						
9	校内安全点検 復興プロジェクト③						
10	校内安全点検						
11	校内安全点検 避難訓練 復興プロジェクト④			・避難訓練② (学校行事)			
12	校内安全点検	・気象と災害 (理2) (副読本第3章)				・他を思いやる心 (2年) 1-(3)	
1	校内安全点検 復興プロジェクト⑤	・自然災害備えて (体2) (副読本第4章3) ・応急手当の意義と基本 (体2) (副読本第4章4) ・傷の手当て (体2)					
2	校内安全点検					・郷土に尽くす (2年) 4-(8) (副読本第2章2)	
3	校内安全点検 復興プロジェクト⑥					・自然への感想 (2年) 3-(1)	

仙台市立 宮城野 小学校

担当者 小野 真一

1 学校・地域の実態 → 2・3

- ・仙台市東部の開発に伴い、住宅地として発展してきた地域である。西には「コボスタジアム宮城」「宮城野原公園総合運動場」、東には中央卸市場や卸商団地、工業団地がある。また、苦竹自衛隊仙台駐屯地とその周辺には官舎がある。
- ・仙台市で出しているハザードマップでは、学校周辺は、液状化の危険性がきわめて高いとされている。
- ・学年末・学年始めの転出入数が多いため地域や子ども会のつながりが薄い。
- ・貨物線の線路下や卸町周辺の道路は、大雨が降ると冠水して交通に支障が出ることがある。
- ・地域住民は、学校に対して協力的ではあるが、地区によって防災意識に違いが見られる。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・3

- [自助] ・災害時に対する正しい知識を身に付ける。
 ・災害時に自らの命を守るために、日頃から安全を意識して生活できるようにする。
- [共助] ・仲間や地域のために進んで行動し、共に助け合う精神と態度を養う。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

宮城野タイム(朝の活動)を中心とした防災タイムを利用した防災教育

4 児童生徒の変容

- ・自分で考えて行動する姿が見られた。
- ・自分の命だけでなく、家族や地域・友達の命を守る態度が身に付いてきた。

5 実践の具体

(1) 隔年で実施される在宅時避難訓練と引き渡し訓練

在宅時に非常事態が発生した場合に、適切な行動がとれることや地域と学校が協力し、連携できることをねらいとしている。高学年や子ども会の世話人が中心となって、いっとき避難場所に集合して指定避難場所(学校)まで避難する訓練。

(2) 家庭防災カードの利用

災害が発生した時に「いっとき避難場所」はどこなのか。「一次避難場所」はどこなのか。子どもと家族との約束事を記入して、提出。担任が確認後、家庭に返す。

(3) 防災タイムの設置

災害に対する正しい知識と災害時に自らの命を守る力を付けるために、日頃から安全を意識して生活することを目的とした時間を設定。月に1回程度、朝活動の10分間を利用。

(4) 9年間を見通した防災教育

中学校区で「チーム宮城野原」として、小中9年間の各発達段階における、育成すべき力の検討を確認。小中連携の取組についての検討。

(5) 震災遺構(荒浜小学校)とメモリアル交流館の見学

津波による犠牲を再び出さないため、校舎を震災遺構として公開し、津波の脅威や教訓を後世に伝えることを目的にした旧荒浜小学校を6年生が見学。後日、全員による新聞作りによって下の学年にも目に触れるような場所に展示し共有した。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

目指す児童の姿(中学年) ○ 災害に関する基本的な知識などを理解し、発生時には身を守るための適切な行動をとることができる。
また、家族や友達と協力しながら、人のために役立つ行動ができる。
年間指導計画作成上の工夫 ○ 家庭との連携を基盤とした防災学習

安:わたしたちの安全

防:新防災教育副読本 ※防:！マークは、震災を踏まえて特に大切と思われる学習内容を含むもの(津波避難、自助、共助)

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事など	教科	総合	特別活動	道徳
4	入学式 交通安全教室(1年)	学校のまわり(社会) 時ごとと時間(算数)	※ 随時活用 6章② 学びのまど 東日本大しんさいのきろく	引渡カード(児童個票) 家庭防災カード 回収・確認	防:1章③ たった一つのもの (道徳)
5	故郷復興プロジェクト 運動会	地図の見方(社会)		防:！4章③ ひなんのし方を考えよう(学級活動)	いのちのまつり(生命尊重)
6	県民防災の日 在宅時地震避難・登校訓練 (授業参観)	健康な生活(保健)		在宅時避難・登校訓練・防災授業(※授業参観) 防:3章① 地しんについて知ろう (学校行事) 安:災害のとき (宮城県沖地震・避難訓練)	すすんで手助けしよう (思いやり)
7	若蔵まつり(児童会) 夏休みを迎える会	仙台市の様子(社会) 浮く・泳ぐ運動(体育)		安:校外での安全 安:夏の安全	防:2章⑤ 大切なこと(道徳) けんたがわすれていたもの (郷土愛)
8・9	夏休み明け朝会 着衣水泳 陸上記録会(6年)・壮行会	太陽とかけの動きを調べよう (理科) 校外学習(スーパーマーケット)		防:！4章④ 自分できめる (学級活動) 安:校外学習(グループ学習)	
10	1学期終業式 2学期始業式 学習発表会	太陽の光を調べよう(理科) 防:3章③ 雨・風・かみなりについて 知ろう(理科)		安:災害の時(大雨・洪水) 防:4章⑤ 家ぞくぼうさい会 (学校行事)	ききひらこう
11	故郷復興プロジェクト 火災想定避難訓練 校内持久走大会 ブックフェスティバル	風やゴムで動かそう(理科) 明かりをつけよう(理科) 工場の仕事(校外学習) (キンピール仙台工場・笹かまぼこ工場)		安:災害の時 (火事・ひなん訓練) 防:！2章③ ふるさとを元気に 自分たちに行けること (学級活動) 安:校外学習(グループ学習)	電池が切れるまで(生命尊重)
12	冬休みを迎える会	防:4章⑥ けがをしたときは(体育)		安:冬の安全 (ヒーターのある部屋では)	
1	冬休み明け朝会	じやくにつけよう(理科) 古い道具とむかしのくらし (社会) 校外学習(仙台歴史民俗資料館) 防:5章① たくさんのおうえん		安:災害の時 (阪神淡路大震災) 安:校外学習(グループ学習)	生きているしるし(生命尊重)
2				防:5章⑥ つたえよう わたしたちのことばで (学級活動)	
3	卒業式 修了式			引渡カード(児童個票) 家庭防災カード 配付・記入依頼 安:災害の時(東日本大震災) 防:6章① ぼうさい知しきをチェックしよう(学級活動) 防:6章③ 仙台のさいがい年びょう・ふっこう年びょう (学級活動)	

仙台市立 原町 小学校

担当者 藤田 慶信

1 学校・地域の実態 → 1・2・5

- ・児童：東日本大震災での大きな被害については覚えているが、その時の自分たちの生活や被災者の様子についての記憶は薄れてきている。人の話をしっかり聞き、正しい情報なのかをよく考えて行動できるよう継続して指導する必要がある。3月の音楽朝会では「希望の道」を歌い、震災時の様子を語り継いでいる。本校には、「柿の木消防クラブ」があり、毎年宮城野消防署による「消防チャレンジ教室」に参加している。
- ・保護者：授業参観や学校行事、引渡し訓練等への参加は多く、協力的な家庭が多い。
- ・地域性：本校には「柿の木応援団」という学校支援地域本部があり、学校行事や校外学習、家庭科などの学習支援に協力をいただいている。
- ・東日本大震災：屋上のプールから水漏れがあり廊下が水浸しになったが、その他の校舎への大きな被害はなかった。
- ・学区内の地理・自然環境：学区内には、梅田川が流れており、普段から近付かないよう指導している。学校の南側には交通量の多い国道があり、登下校時には、必ず歩道橋を渡るよう指導している。

2 目指す児童生徒の姿 → 1・2

- <自助> 災害に関する基礎的な知識や対応方法を身に付け、災害時に落ち着いて行動し、「自分の命は自分で守る」ことができる児童
- <共助> 災害時やその後の対応と復興に向けて、互いに協力し合って進んで行動できる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・保護者や地域と連携した防災教育

4 児童生徒の変容

- ・防災ミニ訓練を通して、地震の時には「頭を守る」という基礎的な知識としてだけでなく、災害時の基本的な技能としてもしっかりと身に付いてきた。

5 実践の具体

(1) 防災ミニ訓練



防災ミニ訓練は毎月11日に行っている。放送が聞こえたら校庭に出る前までの避難、避難経路の途中までの避難、教室の後ろに整列するまでの3種類から一つの訓練を実施している。訓練地震の放送が聞こえるとすばやく机の下にかくれるという動作が身に付いた。

(2) 避難訓練・引き渡し訓練

6月9日(金)に地震時の避難訓練を実施した。その後、たくさんの保護者に参加していただき、引渡し訓練を行った。



(3) 消防チャレンジ教室



毎年6年生の希望者が参加している。原町小のほかにも少年消防クラブのある宮城野中、榴岡小、岩切小の児童も一緒に参加した。高砂消防分署で開講式を行った後、放水体験や中野5丁目津波避難タワーの見学をした。また、ボランティア研修で訪れていた東京都の目黒星美学園中学高等学校の生徒と交流をしながら、災害時の行動を学んだ。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

高学年の目標 ○日頃の避難訓練を生かし、適切な判断と主体的な行動ができる児童(自助)
 (めざす児童の姿) ○友達や家族、地域の人と協力して進んで活動しようとする児童(共助)

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合的な学習の時間	特活	道徳		
	関連行事等						
4	・避難訓練 (避難路確認)						○その向こうに (1章③)
5	・避難訓練 (放送聞く) ・避難訓練 (不審者対応)					○大きな災害と 人間の心の動き (3章⑤) ・防災ミニ訓練	
6	・避難訓練 (地震) ・引き渡し訓練 ・交通安全教室 ・一斉下校訓練					○家族防災会 議を開こう (4章④)	
7						・防災ミニ訓練 ○チャレンジ！子 ども防災モニター	
8 9	・チャレンジ教室 7/27					(4章⑤)2h ○地震を乗り越えよう とした先人の知恵(4章 ⑨)	
10	・宮城野区民まつ り(ポ)					○災害に備え る (4章③) ・防災ミニ訓練	
11	・避難訓練 (火災)	・大地のつくりと 変化(理科) ○地震のメカニ ズムを知ろう (3章①:理科)				・防災ミニ訓練	
12		・災害から人々 を守る(社会) ○人々をつな げる活動 (5章②:社会)				・防災ミニ訓練	○未来へつなぐ (2章③)
1						・防災ミニ訓練	
2		○つながる～ 世界の国々と ～ (5章①:社会)				・防災ミニ訓練	
3	・春の火災予防週 間呼びかけ(ポ)					○防災知識を チェックしよう (6章①) ○仙台の自然 災害年表・復興 年表 (6章③) ・防災ミニ訓練	(4)勤労、社会 奉仕、公共心 「34 この思い をフェルトペン にたくして」

仙台市立 宮城野 中学校

担当者 畠山 智

1 学校・地域の実態

1・2

- ・生徒：東日本大震災から7年近く経過したことや震災後に転入してきた生徒も少なくないこともあり、本校でも地震災害に対する意識の低下が見られるのが実情である。
- ・保護者：協力的な保護者が比較的多く、学校行事やPTA行事などへ参加も積極的である。
- ・地域性：祖父母の代からの持ち家に住む地域や仙台駅東側の再開発によってマンションが建ち並ぶ地域、自衛隊官舎などさまざまであり、学区もとても広い。
- ・東日本大震災：断水や余震による大きな揺れの不安から、マンションに居住する住民を中心に多いときで千人ほどの避難者があった。
- ・学区内の地理、自然環境：国道45号線をはじめ幹線道路も多い。震災時には信号の不具合から道路を横切ることが困難になった箇所もあった。
また、学区内には発生が懸念されている長町-利府線断層帯も存在し、仙台市のハザードマップによると、学校東側の地域を中心に建物の崩壊や液状化の危険度が極めて高いと予測されている。

2 目指す児童生徒の姿

1・3

- (自助) 少年消防隊の活動を通じて、災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、災害時に冷静に、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒。
- (共助) 災害時に進んで地域の人と協力して、他の人や地域の力となれる生徒。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

多様な活動を通して意識を高める防災教育

4 児童生徒の変容

- ・少年消防隊のリーダー(生徒の中心)となる生徒の意識の高揚
- ・避難訓練や防災体験活動への取組の真剣さ
- ・ボランティア活動を中心とした地域との関わりの充実

5 実践の具体

- (1) 引渡訓練 (今年度より)
前年度までの「集団下校(教師引率)」から変更されことを受け、教師の動きの確認を中心に実施した。
- (2) 仙台版防災教育副読本を活用した授業実践
地震を想定した避難訓練の事前指導の中で、「自分を守る(第4章2)」を題材に授業を行った。
- (3) 避難訓練(年2回の通常の訓練(地震・火災を想定)の他に実施)と防災体験活動
 - ・10/19 各教室にて弾道ミサイル対応訓練
 - ・11/14 体育館にて緊急地震速報を活用したシェイクアウト訓練(終了後、各学年ごとに防災体験活動)
- (4) 小中連携事業の一環として(榴岡小, 原町小, 宮城野小, 宮城野中の防災教育連携部)
今年度、「9年間を見通した防災教育の流れ」を作成した。来年度より4校で共有化していく。
- (5) 少年消防隊の活動
生徒会執行部と1学年委員が中心となって組織する(隊員は全校生徒)少年消防隊代表隊員として主に次のような活動を行った。
 - ・7/27 宮城野消防署「消防チャレンジ教室」
 - ・10/15 みやぎの区民祭り「消防コーナー」
 - ・夏季休業中 防火ポスターの作成(美術科課題)
 - ・11/19 街頭防火キャンペーン(ティッシュ配り)

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画

仙台市立宮城野中学校 第2学年

防災対応力の構成要素		知識	技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合		特活	道徳
	関連行事等					
4	・校内安全点検 ・春の交通安全指導 ・避難経路の確認・掲示 ・少年消防隊任命式	・実験器具の安全な取扱い(理) ・健康な身体(体) ・電流とその性質(理)			・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認 ・連休の過ごし方について	・集団の一員として4-(4)
5	・校内安全点検 ・避難訓練(引き渡し訓練)	・木工具の安全な使用方法(技)			☆自分を守る(4章②)	・生命尊重3-(1)
6	・校内安全点検	・自然災害に備えて(体) ☆一人一人が災害に備える(4章①)(家)				・家族愛4-(6)
7	・校内安全点検 ・地区夜間巡視 ・「消防チャレンジ教室」(少年消防隊)	・メテオと上手に付き合うために(国) ・五重塔はなぜ倒れないか(国) ・衣類(繊維)の燃焼実験(家) ・薬害について(家)			☆助け合うってすばらしい(2章④) ・夏休みの過ごし方について	・自然への畏敬3-(2)
8	・校内安全点検(夏季休業中) ・「防火ポスター作成」				・文化発表会に向けて ・地域行事への参加	・郷土愛4-(8)
9	・校内安全点検	☆地震に備えよう(3章③)(理) ・彫刻刀の正しい使い方(美) ・動物のくらしと仲間(理)				・生命の尊厳3-(1)
10	・校内安全点検 ・「みやぎの区民祭り(消防コーナー)」(少年消防隊)	・安全な作業(技)			☆1.17から3.11へ(5章③) ・秋季休業中の過ごし方について	・自己の人生を切り拓く1-(4)
11	・校内安全点検 ・避難訓練 ・「街頭防火キャンペーン」	☆心を満たす食べ物を届ける(5章①)			・火災発生時の対応 ・暖房器具の安全な取り扱い方	・自己の生き方1-(3)
12	・校内安全点検 ・防犯守ろうデー				・安全な登下校(雪害) ・教室の換気について	・家族の絆4-(6)
1	・校内安全点検	・関東大震災(社) ・阪神・淡路大震災(社) ・化学変化と原子分子(理)				・かけがえのない命3-(1)
2	・校内安全点検	・天気の変化(理)				・自立する力1-(3) ・生きる3-(1)☆地域の一員として(5章②)
3	・校内安全点検 ・「街頭防火キャンペーン」(少年消防隊)	・心肺蘇生法、応急手当、傷の手当(体)			☆防災知識をチェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害青年表・復興年表(6章③)	・誇りある生き方3-(3)

仙台市立 西山 小学校

担当者 佐藤 文栄

1 学校・地域の実態 → 1・2・(4)

- ・児童：震災の年に入学した児童も3月で卒業した。日常の会話に震災のことを語る児童は少ないのが現状である。
- ・保護者：引渡し訓練や運動会など学校行事への参加はとても協力的である。
- ・地域性（合同訓練等）：「西山小学校区地域防災連絡協議会」が立ち上がって6年目になる。小学校と中学校を隔年会場にして、毎年11月頃に地域防災訓練を行っている。地域主導の防災訓練に小中学校ができる範囲での参加をしている。児童も地域参加型である。
- ・東日本大震災：校舎の被害も少なく、避難者も少なめだった。3月よりは、4月の余震の時に雨漏り・水漏れ、ひび割れ（いずれも校舎のつなぎ目）が見られた。避難所運営に関しては、PTA 主体で行っていたと聞いている。避難者は地域の方が多く、寝泊まりするというよりは、物資の供給がほとんどだった。尚、隣の中学校は、土台が盛り土のため、被害が大きかったと聞いている。学区内に復興住宅がある。
- ・学区内の地理、自然環境：学校敷地の南側が崖になっており、土砂災害危険地域になっている。また崖の下は高野川が流れており、大雨の時は増水する危険がある。児童の半数以上は、その川に架かった橋を渡って登校している。坂道が多く高低差のある学区であり、利府街道を含む交通量の多い学区である。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

- （自助）災害に関する正しい知識や方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童
 （共助）進んで他の人や地域の人と協力できる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- （1）児童の実態を考慮した各教科と防災教育を結びつけた実践。 （2）自らの考えを発信するための防災教育。

4 児童生徒の変容

- （1）各教科の知識が、身を守るための知識として意識付けされてきた。
 （2）実践授業を通して学校の避難訓練だけでは不十分だったことに気付き、身を守るための正しい知識を得ようとする態度が育ってきている。（自ら身を守る方法を発信していくことの大切さを学んでいた。）

5 実践の具体

- （1）仙台版防災教育副読本を活用した授業 「大きなじしんにそなえよう」（生活単元）の授業



『ぼうさいリュックを用意しよう』の授業を特別支援学級で実践。仙台版防災教育副読本を中心に、紙芝居、教師の体験談、便利グッズの紹介も交えた授業。具体的なグッズについて、マグネット板を用いて操作作業。非常時に必要な物の正しい知識と、自分にとって必要な物について自ら考え、友達と会話しながら学び合う授業実践。

- （2）校内研究（低学年）で「ぼうさいクイズ」アンケートを活用した授業実践

生活科「まちたんけん」の単元と組み合わせて、通学路の安全を考える授業を構想。そのための事前アンケートでの結果を基に授業実践を行った。

- （3）防災スキル

朝の時間に「防災スキル」の時間を設けている。季節の自然災害や学校行事に合わせて、副読本を中心に図書室の本の活用、各種パンフレット、紙芝居を用いて実践を進めている。写真は校外学習出発前の防災スキル風景。



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	生活科 【自分たちの町をしろ 地域の人と関わろう】		特活	道徳	
	関連行事等						
4	始業式 下校指導 交通安全教室 避難経路確認 避難訓練(地震・不審者)				★ひなんのしかたをかえよう B(1) スキル(1)	避難訓練にむけて 大地震 不審者 ②楽しい遠足F(4)	アンパンマンたん生3-(1) E(3)
5	遠足 家庭訪問 運動会 スポーツテスト		どきどきわくわくまちたんけん ・まちのことはなそう ・まちたんけんにいこう ・まちの人となかよくなる	安全な登下校 D(1) スキル(2)		ぼくのわたしの自まん大会1-(2) E(1)F(1)	
6	引渡し訓練	【生活】ぼうさいマップをつくろう C(2)	地域の人と自分から関わることができるように(コミュニケーション) 危険箇所確認 (交通 大地震 大雨 河川洪水)	スキル(1)	ひなんのときはおちついて E(4)F(1)	あいさつ2-(2) F(4)	
7	西山まつり	【体育】水遊び B(1)	増水 河川洪水	スキル(1)	楽しい夏休み BCDEF	かもうのクス4-(5) EF	
8	奉仕作業(たてわり PTA) 夏休み作品展			スキル(1)			
9	避難訓練(業間地震) 避難訓練(Jアラート)	【国語】 ・かんじたことを話したいな ・「ありがとう」をつたえよう B(1) E(4)	もっとなかよしまちたんけん ・まちのこともっと知ろう ・まちの人ともっとなかよくなる方法を考えよう ・まちたんけんにいこう②	★ぼうさいリュックを用意しようC(1)	避難訓練にむけて 大地震 火災 大雨	かぎのかかった一輪車ごや4-(1) E(4)F	
10	校外学習 避難訓練(火災)		地域の人や町のことをくわしく知ることができるようにしらべたことをしようか いてみよう 危険箇所再確認 (交通 大地震 大雨 河川洪水)	スキル(2)	火事の際は★ぼうさいくんれんにさんかしようスキル(3)	こうたのあさ1-(3) E	
11	故郷復興プロ学芸会 ボランティア感謝の会 ※地域防災訓練			スキル(2)	地域の避難訓練に参加しよう 大地震	ママとのやくそく3-(1)E(3)	
12		【生活】1年生におしえよう E(4)	ジュニアまつりをひらこう 【異学年交流】 1年となかよくなる	★つなみについてしろ A(2) スキル(2)	②楽しい冬休みBCDEF	みんなときめたからまもれたルール4-(2) E(1)(2)	
1	避難訓練(地震放送)	【国語】 ・おばあちゃんに聞いたよ E	コミュニケーション (異学年)	②雪道を安全に D(1) スキル(1)	★つなみについてしろ A(2)B(1)	学校のまわりには4-(5) E(2)	
2		【生活】1年生におしえよう 異学年交流 E(4)	自分の成長とおうちの人との関わりを知ろう あしたへジャンプ E F	スキル(2)	大地震 津波	せかいのどこかで3-(1) E(3)	
3	6年生を送る会 震災の日3.11 卒業式	コミュニケーション (異学年)		・しんさいをふりかえろうA(4) E(2) スキル(1)	★あの日3.11 EF	空からのプレゼント3-(3) EF	

仙台市立 燕沢 小学校

担当者 井上 康介

1 学校・地域の実態

1・2

- ・**児童生徒**：児童は、どの訓練にも集中して取り組み、身を守るための知識や技能を蓄積してきている。しかし、東日本大震災で被災したのが就学以前であるため、大規模地震が引き起こす危険や問題を具体的に想起できる児童は少ない。そのため、まずは震災に対する理解を深め、自ら防災対応力を高めようとする課題意識を引き出す必要がある。
- ・**保護者**：共働き世帯が多く、災害時の引き渡しにはやや時間を要する。引き渡し訓練に積極的に参加したり、夏休みを利用しておやじの会・PTAが防災キャンプを主催したりするなど、意識の高い保護者も多い。さらに多くの保護者と防災教育について共通理解を図っていききたい。
- ・**地域性**：小学校との合同訓練は行っていないものの、連合町内会による自主防災訓練に毎年1回取り組んでいる。また、避難所の設営・運営も地域主体で進めることができています。学校と地域の連携をさらに深めていき、防災教育の充実に結び付けていききたい。
- ・**東日本大震災**：校舎では、階段付近を中心に壁や床のコンクリートに大きくひびが入った。教室のロッカーからは児童の荷物が落下し、廊下や特別教室の整理棚も倒れて備品や書籍が散乱した。蛍光灯を吊す支柱の一方が外れ、宙づり状態になる教室もあった。また、通学路の道路に大きなひび割れが生じたり、破損した建物の一部で歩道が塞がったりした。避難所となった体育館は多数の地域住民の方が利用した。
- ・**学区内の地理、自然環境**：学校敷地の南側が崖になっており、その一部は土砂災害警戒区域となっている。高台にあって坂道が多いため、冬期の路面凍結には十分注意が必要である。

2 目指す児童生徒の姿

1・2・4

- (自助) 災害に関する基礎的な知識や対応方法を身に付け、災害時に落ち着いて判断し、自らの安全を確保できる児童。
 (共助) 災害時やその後の生活、復興への取組において互いに協力し、自分にできることを進んで行う児童。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

授業実践を通して自助・共助の意識を高める防災教育

4 児童生徒の変容

- (自助) 実際の地震でも避難が素早くなった。静かさや落ち着きも増し、その重要性を理解する児童が増えた。
 また、学校以外の場所でも、避難の仕方を考え、準備しておくことが大切だとの意識が高まった。
 (共助) 普段の学校生活でも下級生に優しく声を掛ける上級生が増え、下級生も上級生の話をしっかり聞くようになった。

5 実践の具体

(1) 仙台版防災教育副読本および指導事例(教育センターHP)を活用した授業実践(※参観日)

第1学年1・2組『防災リュックを用意しよう』

まず、震災後の生活を想像させ、防災リュックに何を入れておくとよいか考えさせた。友達の考えも聞き合い「何が必要か」「何があると便利か」をさらに深く考えた。リュックは、玄関など避難する時にすぐ持ち出せる場所に置くとういという考えも持てた。

第2学年1・2組『わたしたちにできること』

まず、被災した町や学校の様子を写真でつかませ、自分たちにできる安全な避難方法を話し合った。併せて、家庭で決めている避難方法や備えを話題にし、自分たちにできることは何か話し合った。ワークシートは持ち帰らせ、全家庭で学習内容を共有できるようにした。

(2) 集団下校訓練(縦割り活動)

住所の近い児童で縦割り班を作っている。活動を通して、上級生と下級生が互いに話を聞き合う態度、相手の立場になって考えたり行動したりする態度を育て、共助の力の土台としている。併せて、安全な行動について考える機会としている。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画

燕沢小学校 第4学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合		特活	道徳	
	関連行事等						
4	・防火シャッター 対応訓練 ・避難経路確認 ・集団下校訓練①	【社会】火事からくらしを守る			☆東日本大震災発生(1章①)		・みんなのルール
5	・自宅確認 ・交通安全教室 (上学年) ・学区民大運動会	【社会】事件事故からくらしを守る					・だけどくじけない ☆復興への第一歩(2章②)
6	・避難訓練(地震) ・引き渡し訓練				・地震が起きたら 安全な避難の仕方 ☆災害が起きたら(4章①)		・ぼくたちの手で環境を守りたい
7	★故郷復興プロジェクト (七夕飾り)	【社会】水はどこから				有意義な夏休みの計画	☆一番大切なことは(2章⑥) ・はるかのひまわり
8	・集団下校訓練②					夏休みの振り返り	
9		☆地震のメカニズムを知ろう(3章①) 【体育】着衣水泳					・ぼくは言えなかった
10	・Jアラート対応訓練	【社会】きょう土を開いた人			☆災害から身を守るために(4章②)		・日本のお父さん、お母さん
11	・緊急放送を聞く訓練 ・避難訓練(火事) ★故郷復興プロジェクト	【社会】きょう土を開いた人	バリアフリー、ユニバーサルデザインについて考える		火事のときには☆取り組もうボランティア活動(5章③)		・口で歩く人
12	・緊急地震速報対応訓練	☆応急手当の方法と救急車の呼び方(4章③)	みんながよりよく暮らせるためには			有意義な冬休みの過ごし方	・仲間を探せ！「お願い協力して」
1		地域の資源を保護・活用している地域	みんながよりよく暮らせるためには			冬休みの振り返り	・心をつなぐひとこと
2	・感謝の会	【国語】目的に合わせて書こう					・ひろったりんご
3	★故郷復興プロジェクト	【社会】県やわたしたちのまちの発展			☆防災知識をチェックしよう(6章①)	☆震災を乗り越えて(5章⑥) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・なくなったまさかり
☆副読本活用							

仙台市立 柊江 小学校

担当者 高橋 克博

1 学校・地域の実態

1・2

- ・児童生徒：本校では、「自分から進んで」をキーワードに学校と家庭、地域の三者が協働し、自主性をしっかりと身に付けた児童の育成に努めている。防災教育においては、いざというときに安全を確保するための行動ができるように、各種避難訓練や月初めに行われる朝会の中で「自分の身は自分で守る（自分で判断し、行動する）」ことを指導している。
- ・地域性（合同訓練等）：地域の防災組織は整備され、東日本大震災時の避難所運営も統率が取れていた。また、9月には、連合町内会、PTA、市民センター等の関係機関と連携した地域防災訓練を行っている。さらに、今年度より学校支援地域本部を立ち上げ、学習サポーターや外部団体等、学校・家庭・地域との連携及び協力体制の整備を行っている。
- ・学区内の地理、自然環境：学区周辺には、特別緑地保全区域に指定されている「柊江の森」や「与兵衛沼」があり、良好な自然環境が整っている。一方で、学区内には丘陵緩斜面があり、仙台市から土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域に指定されている場所も数か所ある。

2 目指す児童生徒の姿

2

（自助）災害発生時において、自分の命を守るために、迅速で冷静に避難行動ができる児童。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「自分の身は自分で守る（自分で判断し、行動する）」

4 児童生徒の変容

2学年の授業実践を通して、もし災害に遭ったときに、必要なものを普段から備えておくことが大切であるという意識を高めることができたと考える。

また、各種の避難訓練の様子からは、自分の命を守るために、迅速で冷静に避難しようという姿が見られる。教室から所定の場所への避難時間も短い。また、避難訓練の事前・事後指導を通して、児童は、災害が起きたときに、自分がいる場所や時間に応じて、どのような避難行動を取れば良いのかを概ね理解している。

5 実践の具体

1 「防災リュックを用意しよう」（2学年）の授業実践（10月）

本実践は、『新防災副読本』を活用して、10月の授業参観で行った。本時では、最初に「災害」の用語を説明した。そして、災害に遭ったときには、学校や市民センターなど地域に避難する施設があり、その避難所には、避難してくる人のために災害物資が入っている災害用備蓄倉庫があることを説明した。次に、備蓄倉庫にはどんな物が入っているのか、実際に本校の備蓄倉庫に入っている物資の写真を見せながら「なぜその物が必要なのか」「何に使う物なのか」を考えさせた。児童からは、食料や水以外にも様々な物が必要であることに驚いている様子であった。最後に、いざというときに備えて、自宅ではどんなものが用意できるかを考えさせた。授業後に児童は、「何も準備していないので、準備していた方がいいなと思いました。」「何を持つか、何の食べ物を持つかを家の人と話してみたいです。」といった感想が聞かれた。

2 業間休みにおける避難訓練（11月）

本年度から、より実践的な訓練として、業間休みに緊急放送を聞いて、各自がその場にふさわしい安全確保行動を取り、所定の場所に避難する訓練を実施している。災害は、必ずしも授業中に教職員がいる場所で起こるとは限らない。放送等を聞いて正しい避難行動が取れるように、様々な想定で避難訓練を実施することは、児童の防災対応力の向上につながるものであると考える。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画（2学年）

月	防災教育関係行事	教科	道徳	特別活動
4	登校指導（～10日） 交通安全教室（1, 2年） 自転車教室（3～6年） 避難訓練①（地震） 副地震について知ろう（第3章1, 2） 自分でさめる（第4章4）	生活（1）「春たんけんたい」 副家のまわり学校のまわり（第4章1）		朝：緊急放送がなったら 行事：避難訓練「地震体験」対処行動を知る。 （講話）
5	一斉集団下校			朝：（復興プロ関連）東日本大震災の様子を知るとともに、課題意識を持つ。
6	避難訓練②（不審者）防犯教室 引き渡し訓練（体育館）		10.がんばれアスーラ 3・(1)生命尊重	
7	ふれあい交流会副ふるさとを元気に （第2章3）	体育（2）：「着衣水泳」 身を守る方法を知る		
8	登校指導（～28日）			
9	地域合同防災訓練副ぼうさいリユック を用意しよう（第4章6, 7）			朝：地域合同防災訓練参加呼びかけ
10	登校指導（～16日） 与兵衛沼清掃			
11	故郷復興プロジェクト副手をつないで （第5章3） 避難訓練③副ひなのの仕方を考えよう （第4章3）		24.おでこのあせ 4・(2)勤労	朝：避難訓練関連指導
12			28.火の用 4・(5)郷士への愛着	
1		生活（1）「あしたへジャンプ！」 副大切なこと（第2章5）		
2	避難訓練④（放送）		副たくさんのおうえん（第5章1）、海をこえてきたおくりもの（第5章2） 25.家ぞくといつしよがいっしょな 4・(3)家族愛 37.半分のおにぎり 2・(2)思いやり	朝：（大震災関連）地域の絆や自助・共助
3				

仙台市立 西山

中学校

担当者 水間靖宗

1 学校・地域の実態

1・4

- ・ **生徒**：小学校における防災教育を基盤にし、防災に対する好ましい意識を保持している。登下校に30分以上かかる生徒もおり、地震以外の災害についても、自らの安全を確保する行動ができるような指導が継続的に必要である。
- ・ **保護者**：集団下校訓練など学校行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。しかし、子供の中学校進学とともに、町内会や子供会などの行事への参加が少なくなっている。
- ・ **地域性**：4つの小学校区で、それぞれの連合町内会で防災訓練を実施しており、2小学校区で本校と連携した訓練を行っている。地域市民センターと連携して防災訓練は実施しているが、さらに地域との合同の避難訓練や防災訓練を目指している。
- ・ **東日本大震災**：校舎に大きな被害が出たが、体育館は避難所となった。
- ・ **学区内の地理、自然環境**：学校敷地の南側が崖になっており、土砂災害の可能性があり、仙台市危機管理室から大雨の時の通行が制限されている。また坂道が多く、特に冬季における滑走が懸念される。

2 目指す児童生徒の姿

1・4

(自助)災害に対する正しい知識を基に対応力を深化させ、非常時には自ら考え行動し、自らの安全を確保できる生徒
(共助)家族の一員として家族を支え、地域の一員として自分ができることを自ら見つけ行動する生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

非常時のみならず、日常においても安全を確保する意識を高めていきたい。また、学校は地域や保護者と連携した合同防災訓練の実施を目指しているが、調整が難しい。

4 児童生徒の変容

生徒の自助や共助の意識は高まっている。特に学年が上がるごとに、周囲に対して貢献したいという気持ちを持つ生徒の割合が増加傾向にある。

5 実践の具体

(1) 鶴ヶ谷市民センター主催のプチレスキュー体験講座への参加

救急救命講座、DIG研修(災害図上訓練)、仮設トイレ組み立て、伝言ダイヤル模擬体験災害弱者体験、の五つの体験活動に希望を募り、体験活動を通して防災への意識を深めるとともに自助や共助のスキルを身につけ、防災に関するリテラシーを高める。



(2) 集団下校訓練

集団下校訓練を生徒と保護者と教師が一緒に行うことで、通学路の安全を確認し合い自助の意識を深めるとともに、地区住民としての意識を高め、地域における共助の精神を育む。



(3) 地域防災訓練への参加

小学校区の連合町内会が主催する地域防災訓練が2回あり、それぞれに中学生が参加し活動した。避難所の運営では、避難者名簿作成班、避難食炊き出し班、衛生管理班、仮設トイレ設営班、パケツリレー班などの分担で活動した。生徒たちは運営者からの指示に従い適切に率先して働き、好評を得た。地域住民の方々から好評を得ることで、生徒たちは地域住民の意一員である自覚を高めた。



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

仙台市立西山中学校 平成29年度 防災教育年間計画

	学校行事 防災・安全 関連行事	特別活動 学級活動・生徒会活動	道 徳 (主題名)	総合的な学習	教 科		
					1年	2年	3年
4月	交通安全指導	安全な登下校指導 と通学路の安全確認	3-(2) 自然への畏 敬(2年)		家庭と地域 (技家)		
5月	防犯子どもを守る うデー 修学旅行(3年) 野外活動(2年) 校外学習(1年)	連休中の過ごし方 避難経路の確認 安全な登下校指導 修学旅行事前指導 (3年) 野外活動事前指導 (2年) 校外学習事前指導 (1年)					近代国家の歩み 関東大震災(社会)
6月	避難訓練【地震】 集団下校訓練	地震発生時の安全 確保、避難方法と 避難経路の確認 梅雨時の健康と安全	3-(2) 自然への畏 敬(3年)		健康で快適に住まう (技家)	世界と比べた日本の 特色(社) 自然環境の特色	
7月	家庭訪問(1・2 年)	合唱コンクール実 施中の避難方法 夏休みの計画 夏季休業中の過 ごし方 通学路の安全確認	3-(2) 自然を愛す る心(1年)		住まいの安全対策 (技家)		
8・ 9月		夏休みの反省 運動会に向けての 健康・安全指導	3-(2) 自然への畏 敬(3年)	3年 自分史づくり		日本の諸地域(社会) 九州地方:自然環境	自衛隊のはたらき ～災害援助～(社) 行政のはたらき(社)
10月			3-(1) 命あること の喜び(3年)	2年 職場体験事前 指導 職場体験活動 (5日間)			安全な工具の使い方 (美)
11月	避難訓練【火災】 ブチレスキュー (1年) 暖房器具入火 西山小学校区 地域防災訓練	火災発生時の安全 確保、避難方法と 避難経路の確認 暖房器具の安全な 取り扱い方と教室 の換気	4-(5) 社会への奉 仕(2年)			環境と健康(保体) 簡単な料理の調理 (技家)	地方自治(社)
12月	防犯子どもを守る うデー	冬季間の安全な登 下校 冬休みの計画 冬季休業中の過 ごし方について	3-(2) 命の尊さ(3 年)			傷害の防止(保体) 日本の諸地域(社) 九州地方:自然環 境	健康な生活と病気の 予防(保体)
1月					安全な工具の使い方 (技家) 大地の変化(理) 火をふく大地	安全な工具の使い方 (美) 応急手当・救急法 (保)	国際問題とわたした ち(社会) 安全な工具の使い方 (技家)
2月	保護者会(3年)				大地の変化(理) ゆれる大地 心身の発達と心の健 康(保体) 技術と環境エネルギー の関係(技家)	日本の諸地域(社) 北海道地方:歴史的 背景 天気とその変化(理) 気象	自然と人間(理) 自然と環境保全 自然と人間生活 (気候・地震国・ 火山国)
3月	保護者会(1・2年)	学年末・学年始休 業中の過ごし方			大地の変化(理) 大地の変化を眺み 取る	天気とその変化(理) 前線と天気の変化	科学技術と人間(理) 原子力発電 放射能
通 年	安全点検 (毎月1日)	備品・施設の安全 確認、危険回避 あいさつ運動					

仙台市立 向陽台 小学校

担当者 三浦 健

1 学校・地域の実態

1 - 4

- ・児童の実態：6月に行われた避難訓練は、休み時間に地震が発生し、それぞれの場所から児童が放送を聞き、校庭（避難場所）へ避難する設定で行った。非常放送を静かに聞き、素早く行動する児童が多く見られた。さらに、登下校時に地震が発生した場合の自分自身の安全確保ができるよう指導を継続していく必要がある。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、引き渡し訓練など学校行事等への参加率は高い。
- ・地域性（地域防災訓練）：毎年9月の第4日曜日に向陽台小学校を会場に地域防災訓練を実施している。地区ごとに訓練内容が定められており、地域が主体となり訓練が行われている。
- ・東日本大震災：建物への被害は少なかったが、電気、水道、ガスが普及するまで1週間程度掛かった。避難所を設営したが、避難者は自宅に戻ることができた。
- ・学区内の地理、自然環境：学区が広く、登下校に30分以上掛かる児童もいる。坂道や道幅が狭いところも数多く見られる。また、冬期間はアイスバーンになりやすく坂道も多い。

2 目指す児童生徒の姿

2 - 4

- (自助) 災害に関する基礎的な知識や対応力を身に付け、災害時に落ち着いて行動し、身を守る児童の育成
 (共助) 災害時やその後の対応と復興に向けて、互いに協力し合い地域で進んで行動できる児童の育成

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

自ら判断し、主体的に行動できる児童を育てる防災教育

4 児童生徒の変容

- ・地震発生時は、どんな所に気を付けたら良いか考えながら安全に行動できるようになった。
- ・地震の際に、どんな備えをしておけばよいか知るとともに防災について家族と話をするようになった。

5 実践の具体

① 避難訓練（4月・6月・11月）、安全確認班下校訓練（12月）

災害の内容や発生時間等の想定を変えた避難訓練を年に3回実施している。それぞれの避難訓練の目的を事前指導で確認し、事後指導の振り返りで出てきた課題を次の訓練に生かすことを繰り返してきた。その結果、目的意識を持って主体的に避難行動をとるようになってきている。特に業間の避難訓練では、放送があったら静かに聞き、避難場所に素早く避難することができた。

② 防災授業「家族防災会議を開こう」

「防災」をテーマに授業参観「家族会議を開こう」を行った。地震等の自然災害が発生した場合における『そなえ』について考えることにより、自分や家族の命と安全を守るために必要なものは何かを保護者と一緒に考える授業を行った。

授業参観後には各家庭で常備品について話し合いを行っていただいた。実際に不足している物や新たに補足した方が良い物を準備する家庭も見られた。

【防災授業を終えて保護者の感想】

- ・話し合うことによって、あれもあると便利、これもあったほうが良いと色々な物が出ましたが、話すだけではダメで、本当に常備しないという必要性を感じました。
- ・災害に備えて飲料水や長期間保存できる食品などを確認しようと思いました。家の備品も色々期限が切れていたりしたので改めて確認できて良かったです。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- ☑ 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- ☑ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- ☑ 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

第4学年防災教育年間指導計画

*副読本の内容は太字

防災対応力の構成要素		知識 防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	技能 防災や災害に関する 直接的な内容		態度 防災や災害に関する 間接的な内容	
学年	教科・領域 関連行事等	教科	生活・総合	特活	道徳	
	4	校内避難経路の確認 放送聞き取り訓練 避難訓練(地震)	火事からくらしを守る (社会)		障害のある人と仲良くなる ↓	避難経路の確認 登下校の安全 避難訓練事前事後指導
5	家庭訪問 運動会	事故や事件からくらしを守る (社会)	「復興へ今を力強く」	↓	運動会災害発生時の対応	「東日本大震災発生」 「希望の詩」 「復興へ今を力強く」
6	避難訓練(地震) 防犯訓練 引き渡し訓練	水はどこから (社会) 電気のはたらき (理科)		↓	避難訓練事前事後指導	口で歩く人 (生命尊重)
7	夏休み安全指導			「チャレンジ子ども防災モニター」	夏休みの生活	ぼくたちの手で環境を守りたい (郷土愛)
8		ごみの処理と利用 (社会)		↓		
9					「震災を乗り越えて」	
10	安全確認班登下校訓練	くらしの中の和と洋 (国語)			登下校訓練の確認	
11	避難訓練 故郷復興プロジェクト 学芸会				避難訓練事前事後指導 学芸会災害発生時の対応	
12	授業参観 安全確認班下校訓練 冬休み安全指導	「もののあたらまり方」(理科)			「家族会議を開こう」	冬休みの生活
1						こん虫カメラマン (勤労)
2						
3	震災関連行事 春休み安全指導				「仙台の自然災害年表・復興年表」	春休みの生活 絵を描くのが大好き (勤勉努力)

仙台市立 向陽台 中学校

担当者 齋藤 公

1. 学校、地域の実態 → 1・4

- ・生徒：震災から6年を経過し、記憶が風化してきていることは否めない。生徒は、避難訓練など指示された避難行動に対しては素直に取り組む。
- ・保護者：保護者は共働きの家庭が多いが、比較的学校の教育活動には理解を示し、協力的である（文化祭のバザーや冬場のイルミネーション点灯式の準備など父親の協力も多く見られる）。
- ・地域性：それぞれの地区で防災訓練や清掃作業が毎年行われている。中学生の参加は、各家庭の意識の差が現れている。
- ・東日本大震災：近隣の小学校に避難した人が多く、本校は避難所としては7日間で閉鎖することとなった。情報の絶対的な不足と混乱の中、給水や食料の配給配給など、教職員は手探り状態の中、対応に追われた。
- ・学区内の地理・環境：泉区の北東部にある高台に位置する。学区は東西に広く一部、自転車通学を認めているが道幅が狭く、朝夕の交通量も多い。自転車による事故が毎年発生しており、防災教育と平行して交通安全教育にも力を入れている。

2 目指す生徒の姿 → 2・4

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、災害時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる力を育成する。
- (共助) 災害時に進んで他の人や地域の力となろうとする心情や態度を育成する。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

避難訓練を中心とした防災教育とボランティア活動の推進

4 生徒の姿容

- ・自助の視点では、各種避難訓練の実践によって、災害時の避難行動や安全確保に対する心構え、行動力は向上してきている（外部からの評価も高い）。
- ・共助の視点では昨年度から継続してボランティア活動推進に学校全体で働き掛けを行っており、災害時のみならず平時での助け合いの姿が見られるようになってきた。

5 実践の具体

(1) 年4回の避難訓練＋Jアラート対応の避難訓練（臨時）

本校では毎年、年4回の避難訓練を行っている。地震や火災の発生時間、場面をすべて変えて行った。9月の避難訓練では防火訓練体験を予定していたが雨のため中止となってしまったので来年度はぜひ実施したい。集団下校訓練では、各地区のリーダーを中心に指定避難所までの集団下校を行っている。（危険個所の確認も併せて行った。）

(2) 小中合同挨拶運動（6，11，2月の年3回実施）

小中合同で定期的に挨拶運動を実施している。校内だけでなく通学路の要所や小学校に出向き、明るく元気に挨拶をかわし地域との交流を図っている。

(3) 地域防災訓練への参加

9月に行われた向陽台学区での地域防災訓練に生徒も参加し、各町内会の一員として消火訓練・煙テント体験などに参加し、防災意識の高揚に努めた。



(4) ボランティア活動の推進

日頃からの地域との交流が、災害時に助け合う心情や態度を育むことにもつながると考え、校内外のボランティア活動に力を入れている。今年度は生徒総会で地域のために何かボランティア活動がしたいという意見が生徒から出て、地区懇談会で呼び掛けも行った。地域の活動（清掃活動、児童館の諸活動、夏祭り、どんと祭など）に協力する生徒も増え、生徒会の老人ホーム清掃活動への呼び掛けには、休日にもかかわらず50人以上の生徒が集まる等、ボランティア精神が向上してきている。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること
- 仙台版防災年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な態勢を年間指導計画に的確に示すこと

平成29年度 防災教育年間指導計画(第2学年)

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容		防災や災害に関する間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳		
4	・安全点検 ・交通安全指導 ・避難訓練(地震) ・PTA総会	体：集団行動 社：世界の火山や地震の分布			副読本1章②		
5	・安全点検 ・野外体験学習 ・新体力テスト				野外体験学習 緊急時対応指導		副読本2章⑤
6	・安全点検 ・市中総体 ・避難訓練(地震) ・地区生徒会 ・集団下校訓練 ・小中合同挨拶運動	家：副読本4章①					4-(6) 家族の深い愛 「美しい母の顔」
7	・安全点検 ・合唱コンクール ・故郷復興プロジェクト ・防犯教室 ・教育相談					・夏休みの生活	副読本2章④
8	・安全点検 ・故郷復興プロジェクト ・夏祭りなどの地域行事					・地域行事への参加	
9	・安全点検 ・避難訓練(火災) ・文化祭	理：副読本3章③					1-(3) 責任ある判断 「リクエスト」
10	・安全点検 ・新人大会 ・体育祭					・秋休みの生活	2-(2) あたたかい人間愛 「軽いやさしさ」
11	・安全点検 ・職場体験学習 ・避難訓練(地震) ・愛泉荘訪問 ・故郷復興プロジェクト ・小中合同挨拶運動	副読本5章①				・地域奉仕への参加	4-(10) 国際協力を考える 「国際線が鍛える共生の思考」
12	・安全点検 ・暖房開始 ・教育相談	社：副読本3章⑥				・冬休みの生活	3-(1) かけがえのない命 「命の重さ」
1	・安全点検 ・科学館学習	理：天気とそ の変化					
2	・小中合同挨拶運動 ・安全点検	理：天気とそ の変化					副読本5章③
3	・安全点検 ・卒業式 ・東日本大震災関連行事					・春休みの生活	4-(8) 郷土に尽くす 「アップルロード作戦」

副読本とは、「3. 11から未来へ」である。道徳は「自分を考える」(あかつ

仙台市立 将監東 中学校

担当者 高澤 健之

1 学校・地域の実態

生徒：学区が震災時の復旧が比較的早い地域であったためか、または震災当時の記憶が薄れつつあるためか、防災に対する意識が高いとはいいがたい傾向がある。学区が広く、自転車通学の生徒が3割ほどおり、30分程度徒歩で通学する生徒もいる。このため、災害発生時に自身の安全の確保を図れるよう指導を行う必要がある。

保護者：引き渡しカードを作成し、災害発生時の連絡先や誰に引き渡すのかなどを確認している。半数以上の家庭が災害に備えて家具の固定または食料品の備蓄などを行っている。

地域性：学区の一部にあたる地域の防災訓練に、有志の生徒が参加している。

東日本大震災：近隣にあるマンションの住民が1週間程度避難所に滞在したのみだった。

学区内の地理、自然環境：通学路に冠水しやすい箇所が数か所あり、水位が腰の高さ以上にまでなる箇所もある。また、急で長い坂道が多く、降雪時には注意が必要な地域である。

2 目指す児童生徒の姿

- ・自身の安全を確保できる生徒
- ・復興に向けて協力するという意欲を持つ生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・防災訓練などを中心とした防災教育

4 児童生徒の変容

- ・地震や火災等、状況に応じて避難経路を判断できるようになった
- ・避難行動中、待機中の私語が減り、防災訓練が素早く行われるようになった

5 実践の具体**(1) 避難訓練の実施**

- ・避難方法の基本（机の下にもぐる、放送の指示で避難開始、「おはし」の徹底、厚めの教科書等で頭を覆うなど）の徹底

(2) プリント「家族と連絡をとる方法」の活用

- ・災害発生時に家族間でどのような方法で連絡を取り合うのか各家庭で話し合いをしてみよう。（①家から離れている場合②家に一人である場合③避難所にいる場合④どうしても連絡がとれない場合⑤災害伝言ダイヤルの紹介

(3) 防災教育副読本の活用

- ・防災教育副読本p.50を活用し、「自助」「共助」「公助」の考え方を学習した。

(4) 「仲間とともに」の継承

- ・合唱コンクール教科練習期間（2週間）の間、朝練と放課後練に必ず「仲間とともに」を歌い、復興に向かう気持ちを養った。

(5) Jアラート対応マニュアルの作成及び避難訓練の実施

- ・職員間でJアラート発報時の対応を検討し、マニュアルを作成した。また、生徒用の簡易版及び避難経路案内を作成し配付した。
- ・朝の会後に15分程度の時間を取り、Jアラートの発報を想定した避難訓練を実施した。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成30年度課題となること

■目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。

■仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。

■仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教 科	総 合	特 活	道 徳		
	関連行事等						
4	・防災訓練	・集団行動(保・体) ・理科室の使用上の注意		・家庭でできる災害への備え(副読本)	・避難経路の確認		
5	・校外学習 ・復興プロジェクト			・校外学習において雷から身を守るために	・絆を力に 一歩ずつ(副読本)	・花に寄せて	
6	・防災訓練 ・防犯教室			・地震に備えよう(副読本) ・様々な状況下での避難の方		・楽寿号に乗って	
7		・水泳時の安全指導(保・体)					
8	・地域ぐるみ巡視						
9							
10		・災害予防の住まいについて(家庭) 副「家族でできる災害への備え」					
11	・防災訓練 ・復興プロジェクト			・自分の身は自分で守る(副読本) ・様々な状況下での避難	・心を満たす食べ物 を届ける(副読本)		
12	・地域ぐるみ巡視						
1		・火をふくふく大地(理科)					
2		・動き続ける大地 ・大地の変化を読み取る(理科) 副「地震に備え」					
3	・地域ぐるみ巡視 ・復興プロジェクト				・中学生の声(副読本)		

